XII　地域連携

本章は「平成 24 年度　教育実践総合センター活動報告書」を引用した。

1　はじめに

茨城大学教育学部附属総合実践センターは平成 24 年度から組織がえし、「教員養成支援部門」と「地域教育支援部門」との二部門で運営しています。昨年度までセンターで教育相談等を担当していた「地域教育臨床部門」は、いっそうの充実を意図して臨床心理相談室として独立しました。そして当センターの場所も、教育学部 A 棟 2 階に移転しましたので、ご訪問の際はご留意いただければ幸いです。またセンターの改組にともない本誌もこれまでと異なる内容構成にいたしました。最後までご高覧いただければ幸いです。

「教員養成支援部門」と「地域教育支援部門」とは、それぞれ次の目的をもっています。

「教員養成支援部門」は、学生や大学院生が将来教職にすすむにあたって身につけてもらいたい教育理論とその実践力を向上させるために設けました。そのため当センターに学生や大学院生、教員、地域の教育関係者の誰もがいつでも使用できる「小学校教室サイズの模擬授業室」「教材教具作成室」「機器共同利用室」を設置しました。年間をとおして、当センターで保有するデジタル教科書や ICT 機器類もふくめ、関係者がそれら施設を多いに活用してくださっていることは改組の狙いにそったものとなっています。

「地域教育支援部門」は、地域の教育界に資するために組織しました。とくに当センターが窓口となり派遣している学生ボランティアの活動は地域の好評をえて、年を経るごとに派遣依頼が増加しています。もとより学生ボランティアの活動は、地域教育支援だけでなく、学生自身が地域教育界から学ぶ「教育実践の場」でもあります。活動に参加した学生が実施する「ボランティア活動報告会」での報告は、学生が地域教育から学ばせていただいた証左ですので、いずれ文書化したいと考えています。この部門では地域からの要請をうけて、大学教員への派遣、学校運営の相談に応じていますが、新たに附属学校園との連携研究を核として、先に述べた新しい施設を活用しながら地域の公立学校等とも協働した授業研究会等も進めているところです。そういった地域教育活動に役立つよう、また県内の教育関係の情報を知ることができるように「いばらきの教育資料室」も本年度からセンター内に設備しました。

すなわち「教員養成支援部門」は、教育学部の「うち」にむかっての教育力の向上をめざし、また「地域教育支援部門」は教育学部の「そと」にむかっての教育力の向上をめざすものです。ふたつの部門による実践的な活動が相乗効果を生み出し、なおいっそう地域社会と結びついたかたちで、当センターを位置づけたいと考えています。その意味でも、今後とも関係者各位からのご協力をいただきたく願っております。

茨城大学地域連携推進本部長
茨城大学教育学部地域連携委員会委員長
茨城大学教育学部附属教育実践総合センター長
田　中　健　次

2 教員養成支援部門

2-1　今年度の部門における活動概要

教員養成支援部門は，本年度設置された新たな部門です。その活動内容は，文字通り学部における教員養成教育全般にわたる支援を行うというものですが，具体的には，二つの大きな柱をもって活動に取り組みました。

一つは，教員養成の本丸とも言える教育実習の支援です。当学部における教育実習は，1年次から４年次までの各年次を通した積み上げ型のカリキュラムとなっています。１年次・２年次はいわゆる「事前指導」としての講義や学校参観を中心とした内容で構成しています。３年次・４年次では学校現場における本格的な実習を行います。これらは，学部の委員会組織の一つである「教育実習委員会」が中心となって企画・運営されています。同委員会は学部内の各教室から選出された１名ずつの教員と，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校，附属幼稚園から選出された１名ずつの委員（実習主任），４附属の校園長が主なメンバーとなりますが，本年度より改めてセンター専任教員も所属することとなり，主に１年次・２年次における授業（実習）と，３年次・４年次の実習に対する事前事後指導の企画・運営・コーディネートを担当することになりました。その具体は後に報告します。

昨年８月28日付で公表された，中央教育審議会・教員の資質能力向上特別部会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では，随所に教員養成段階における教育実習の在り方にかかわる言及があります。これを受けた学部における教育実習カリキュラムの改革の方向性をにらみながら，当部門はますます充実した取り組みを重ねていく必要があるものと考えます。

二つ目の柱は，本年度より新たに設置した「模擬授業室」の運営・活用を通した教員養成教育の支援です。この模擬授業室は，文字通り，学校における授業を模擬的に実践するための教室として，小学校・中学校の一般教室の構造をイメージ・再現したものです。これも後に具体的に報告しますが，4月より教育法などの授業において模擬授業形式の演習などに利用されてきました。また，当室を会場とする企画をいくつか立ち上げ，実施することができました。初年度ということもあり，教室使用の手続きや使用方法などの設定にいくぶんかの課題を残しています。また模擬授業室と内部で繋がり，隣室として設置した「教材教具作成室」は，その機能を果たすための設備・備品がまだ十分ではありません。次年度以降，両教室の整備と活用促進に向けてさらなる取り組みを進めていきたいと思います。

以上，当部門における主な取り組みの概要を述べました。

次頁より，上記の二つの柱，本年度の教育実習の実施状況およびそれらに対する支援の内容，模擬授業室の状況と本年度における活用状況などを具体的に報告します。

（文責：部門担当　昌子佳広）

2-2　平成 24 年度　教育実習の実施状況

(1) 教育実習カリキュラムの概要

本学部における教育実習カリキュラムは以下の通りとなっている。

履修年次	実習科目名	対象課程・コース，必修／選択の別
１年次	教育実践研究　＊	全課程共通，選択科目
２年次	教育実地研究入門　＊ 養護教育実地研究入門 養護実践研究Ⅰ	全課程共通，必修科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
３年次	初等／中等教育実地研究Ⅰ　＊ 幼児教育実地研究Ⅰ　＊ 養護教育実地研究Ⅰ・Ⅱ 養護実践研究Ⅱ	学校教育教員養成課程，必修科目 全課程共通，選択科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
４年次	初等／中等教育実地研究Ⅱ　＊ 中等教育実地研究Ⅲ（＊） 中等教育実地研究Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ　＊ 幼児教育実地研究Ⅱ（＊） 特別支援教育実地研究 特別支援教育実地研究 養護教育実地研究Ⅲ 養護実践研究Ⅲ	学校教育教員養成課程，必修科目 学校教育教員養成課程，選択科目 養護教諭養成課程・情報文化課程 ・人間環境教育課程課程，選択科目 全課程共通，選択科目 特別支援教育コース，必修科目 全課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目

このほか，他学部向けの中学校，高等学校での教育実習を実施している。

このうち，１年次対象選択科目「教育実践研究」，２年次対象必修科目「教育実地研究入門」については，センター専任教員が中心となって企画および実施・運営にあたった。３年次および４年次の各科目（実習）については，それぞれの実習運営を統括する教育実習委員会内の各小委員会と連携しながら事前事後指導を企画・立案し，関係者との連絡・調整等にあたった。これらセンター教員が企画・運営・指導等にかかわった実習（上記表中＊）について，次項よりそれぞれの概要と実施状況を報告する。

(2) 本年度における教育実習の実施状況

① 教育実践研究

学部における教育実習全体の導入として位置づけられる授業（実習）である。ねらいを，

○学校における授業やその他の活動を参観し，児童・生徒の実態を把握することができる。
○各教科の授業について，授業の展開過程，教材研究のあり方，児童・生徒の実態をふまえた指導や支援のあり方などを，実地に学ぶことができる。

の２点に設定し，附属小学校および附属中学校における学校（授業）参観を中心的な活動として行った。選択科目であるが，特別な事情（参観日程に別の予定が重なったなど）を除くほとんどの１年次学生が履修した。

本年度は，４月当初に教育実習カリキュラム全体のガイダンスを行うとともに，本授業の概要（ねらい，内容，日程）を説明し，履修登録を受け付けた。その後，学校現場を訪問し授業参観・観察を行うにあたっての服装や基本的な態度のあり方，記録のとり方などを事前に指導した。そして，３年次の教育実習期間にあわせ，各選修・コース・課程ごとに設定した期日に，附属小学校および附属中学校を訪問し，授業（先輩である教育実習生の授業を含む）参観や児童・生徒の観察を行い，参観・観察の内容に基づく討議を行った。

日程や内容については，附属小中学校と連絡をとりながら企画を進め，学生向けの参観てびきや記録用のワークシートなどを作成し，実際の指導は，各選修等ごとに，各教室から選出された教員が行った。全日程終了後にレポートを提出させ，評価した。

② 教育実地研究入門

３年次以降における本格的な教育実習の事前指導と位置づけられる授業（実習）である。ねらいを，

○教師のあり方，学校での業務，児童生徒の状況など，学校における日常的な実情を理解できる。
○教師という仕事のあり方に関する基本を理解し，またマナーや身だしなみなどの社会性を培う。
○授業参観，清掃活動の支援，遊びなど，学校での参加活動を通して，子どもとふれあう力を養う。

の３点に設定し，教師のあり方や学校における仕事など，教職についての基本的な理解を得るための講義と，水戸市内の公立小中学校への教育参加体験によって構成した。講義を通して，児童生徒の見方，授業の進め方，校務のあり方などについて理解したうえで，学校現場における実地体験を通し，教職および学校教育への意識を高めていくようにした。

学校現場での実地体験においては，以下の学校の協力を得た。

・水戸市立石川小学校	・水戸市立寿小学校	・水戸市立三の丸小学校
・水戸市立城東小学校	・水戸市立新荘小学校	・水戸市立千波小学校
・水戸市立常磐小学校	・水戸市立堀原小学校	・水戸市立見川小学校
・水戸市立緑岡小学校	・水戸市立吉田小学校	・水戸市立笠原中学校
・水戸市立第五中学校	・水戸市立千波中学校	・水戸市立双葉台中学校
・水戸市立緑岡中学校		

小学校11校，中学校５校である。５月から10月までに実施した講義をふまえ，11月の４週間，毎週水曜日午後に上記の学校に分散して訪問した。学校では各学校ごとに計画された日程で，授業・休憩時間・清掃活動・放課後の活動などの参観・観察や参与実習を行った。

授業の計画及び運営，また訪問学校との連絡・調整はセンター専任教員と非常勤講師（松﨑茂樹）が行い，学校訪問の際は各教室から選出された教員が引率・指導を行った。学校参観を通してまとめるレポートと，講義内容に対する試験によって成績を評価した。

私がこの講座を担当してから４年たちました。１年目は選択でしたが，次の年から必修になり，受講生が大幅に増えました。そのため，学生の顔を名前が覚えられなくて困っています。

多くの学生は真面目に受講しているのですが，中には無断で途中リタイアする学生もいることが気になります。社会人としての常識が問われます。

さて，この講座の目玉は，水戸市の小中学校のご協力を得て実施する学校参観です。学校参観をしているときの学生の顔は皆生き生きとしていて，こちらも楽しくなってきます。また，「学校の雰囲気の根底には，しっかりとした学校経営の構想がある」「すぐれた教材と教師の手腕によって，子どもたちのモチベーションの維持は可能である」等のレポートを読むと，とても頼もしく感じるとともに，是非，茨城県の教師になって欲しいと強く思います。　（非常勤講師　松﨑茂樹）

③　３年次・４年次における教育実習

３年次・４年次では，課程・コースごとに必修あるいは選択として，幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の各校種における教育実習を行うが，これらに対するセンター専任教員の関わり方としては以下の諸点がある。

・事前事後指導の企画・運営，連絡・調整
・「教育実習運営協議会」への出席
・教育実習期間における諸相談（模擬授業室の開放・提供を含む）
・授業記録ＶＴＲ撮影のコーディネートと整理・保管

事前事後指導については，教育実習委員会内の実習種別（基本実習，協力校実習，帰省実習，養護実習）ごとの各小委員会と連携しながら内容を検討し，必要に応じて外部機関との連絡・調整を図って実施した。事後指導は，全体での指導（講話等）を行った後，選修・コース等の単位に分散して学習会（報告，討議）を行うという流れとしている。分散会（学習会）での内容の大枠は共通に決め，詳細は各選修等ごとの指導を担当する教員と学生との合議によって内容が検討され実施された。また，これは１年次の「教育実践研究」の授業の一部を兼ねており，１年次生に対する報告，１年次生からの質疑と応答といった内容も，各選修等ごとの企画の中に含まれている。

今年度から大学院教育学研究科所属学生の「免許取得プログラム」による教育実習（帰省実習）も行われているので，この対象学生（院生）を集めての学習会はセンターで担当した。

また，各実習種別ごとの事後指導レポートは選修等ごとの担当者が目を通した後にセンターに送られ，書かれた内容，特に「実習中に抱えた悩み」「実習中に起きたトラブル」「大学および実習校の指導体制等に関する要望・意見」などを整理して記録に残している。

「教育実習運営協議会」は，教育実習を行う附属学校園，県内公立小中学校の先生方（校長先生や，実習主任の先生）に出席していただき，大学側からの依頼・説明や，実習運営および実施に関する協議・反省等を行う場として，実習が始まる以前の６月と，終了後の12月に開催しているものである。大学側は学部長をはじめ実習にかかわる各セクションの関係教員が出席し，また他学部の教育実習担当教員も出席する。茨城県教育委員会にもオブザーバーとしての出席を依頼し，陪席をいただいている。

本年度は，附属学校園を含めて７６校（小学校２６校，中学校５０校）で教育実習が行われた。全課程において行われる選択の帰省（母校）実習はこの数に含まれていないので，それを含めるとおよそ１３０校にご協力をいただいたこととなる。

センター教員はこの２回の会議に出席し，特に６月開催の会議において実習における指導内容や評価基準などについての説明を担当した。

教育実習期間（直前時期を含む）においては，学生が実習において担当する教科指導（授業）の構想（教材研究，授業計画）を中心に，実習全般にわたる諸相談への対応を行った。これについては事前の広報が十分でなかったためか，直接相談に訪れる学生は少なかった。また，「模擬授業室」は，まさに実習事前・事中の期間において学生に活用されるべき教室ではあるが，設置初年度ということもあり，十分な形で機能したとは言い難い。このことは別項にも報告するが，今後の課題であろう。

最後に，本年度からの新たな試みであるが，附属小学校及び附属中学校での実習（３年次必修）では，実習のまとめとして行われる研究授業について，全員分の授業記録ＶＴＲを撮影し，ＤＶＤに記録して保管することとした。次年度から本格実施される「教職実践演習」の資料としての活用を想定したものであるが，年度内における事後指導や，学生個人のふりかえりなどにも活用された。

2-3　模擬授業室の整備・活用状況

(1) 模擬授業室の設置について

当センターの改革における一つの目玉は，場所の移転に伴って，新たに「模擬授業室」を設置したことである。構想を具体的に始めたのは平成23年の８月頃であった。それまで「学生学習室」として主にＰＣを利用できるスペースとして開放していた教室を言わば「リフォーム」して，小学校や中学校の教室空間をイメージし，授業の練習・模擬的実践，板書や教室掲示（環境整備）のシミュレーションなどを行える場所とするという計画を立て，他大学における先行事例なども参照しながら具体的な設計に取り組み始めた。

小中学校の一般教室よりも縦長なスペースであったので，パーティションによって２つのスペースに間仕切り，一方を「模擬授業室」，他方を「教材教具作成室」とすることとした。前者には黒板，学校用の机・椅子，ロッカー，掲示板などを設置して学校教室空間の再現を目指し，後者は授業の準備作業，例えば黒板に貼る大判の提示資料の作成・製作，ＰＣによるワークプリントの作成などを行うことや，そうした作業の際の参考となる資料（文献等）を備える部屋として構想した。パーティションには扉をつけ，内部の移動を可能にした。

このための予算はある程度十分に確保されたが，既設の環境を全面的に変更すること（例えばいわゆるＯＡ床の撤去や廊下側に窓を新設するなど）はできなかった。また一部の什器については既存のものを流用（転用）し活用することとした。こうした設計から物品の選定作業等を経て，平成24年３月に内装工事および物品の搬入・設置を行い，一応の形が整った。

模擬授業室の仕様（概要）は以下の通りである。

・広さは小中学校の一般教室（40名規模）とほぼ同じ。
・黒板は曲面・上下可動式（附属小学校に設置しているものと同じ）。
・前面黒板横に教師用事務机やキャビネットを設置。
・学習者用座席数は40。机・椅子は学校用のもの（机天板，椅子座面・背面は木製）。
・天井に40型デジタルＴＶモニタおよび手動昇降式スクリーンを設置。
・後方に荷物ロッカーを設置。
・背面（パーティション面）に掲示板を設置。
・下足ロッカーおよびスリッパを設置（48名分）

このほか，大型の三角定規，分度器，コンパス，黒板消しクリーナーなどの学校（教室）備品やキーボード（電子ピアノ）を購入し設置してある。清掃用具入れも備えた。ＯＡ床（カーペット敷）であるので掃除機を収めている。

また，機器関係の備品として以下を備えている。

・電子黒板（インタラクティブ・ホワイトボード）プロジェクタ投影式，80型
・プロジェクタ　通常型，超短焦点型
・デジタルＴＶ　40型
・ノートＰＣ　電子黒板コントロール用
・実物投影機（ＯＨＣ）
・ブルーレイ／ＤＶＤプレーヤー
・ＣＤプレーヤー
・デスクトップＰＣ　２台　教材作成用
・モノクロレーザープリンター　２台　同上

特に電子黒板や実物投影機，デジタルＴＶは，いわゆるＩＣＴ教育研究の推進に資するものとして，学生や現職教員等向けの講習会の開催，模擬授業における使用等を想定して導入したものである。後に述べるが，24年度は実際に講習会を開催することができ，また大学院生がその研究の一環として小学校現場でＩＣＴ機器を用いた授業実践を行うにあたり，事前にこれらを用いたシミュレーションを行うこともできた。

(2) 本年度の使用状況

繰り返し述べるように，本年度は設置初年度ということもあり，年度当初に使用約款等を定めたがこの時点ではあくまでも仮のものとして，試行的にさまざまな取り組みを行いながら，当室の使用のあり方を模索していったという事情がある。

当室の使用は，学部教員の担当する授業において特に模擬授業等の演習を行う必要がある場合において使用できるものとし，また学生個人やグループでの使用も可能とした。まとまった使用時間を予め確保したい場合には，センター事務室において申し込み（予定表に使用者（代表）氏名を記入するだけの簡単な手続き）をするものとした。月ごとの使用予定は教室外に掲示するとともにセンターのホームページ上にも公示している。この予定表によって把握できる使用状況（数字は回数）は次頁表の通りである。

なお，使用は必ず予約・申し込みを必要とするものではない。空いている時間帯は特に制限なく自由に使用できる。原則として午前８時30分に解錠し，午後５時30分に施錠することとしており，その時間内に使用は随時可能である。

表に基づいて今年度の使用状況を簡単に報告する。

① 授業での使用

使用者（代表）が「教員」であるものは，ほとんど授業での使用ということとなる。前期（７月まで）と後期（10月から１月まで）を比較すると，後期には使用頻度がかなり高まったことが確認できる。授業はやはり「教育法」にかかわる科目が多く，学生が実際に模擬授

において「模擬授業」が課される場合（自治体）があり，それへの事前対策・練習として活用された場合である。またいま一つは，９月に行われた教育実習への準備等に活用された場合である。この二つの目的による使用が，８月・９月の２箇月間に盛んであった。また，学校ボランティア等に積極的に取り組んでいる学生の自主サークルが，それらの活動準備のために定期的に使用していた。

なお，教育実習期間における使用に関しては課題も残っている。

学生たちは教育実習期間において学校での勤務を終えた夕刻以降に大学に戻り，教材研究や指導案作成，教材プリントの作成などに取り組むことがあり，さらに翌日（以降）に行う授業実習のための練習，模擬授業等を行っている。そのための場所として模擬授業室は最適なものとなるであろう。ただし，当室の開放時間帯は前述の通りの設定としている。これは一般教室や学生学習室，学生用のラウンジ，即ち特定の選修・コース等の教員・学生組織に管理を委ねないスペース全般にほぼ共通する設定である。したがって，学生が学校での勤務を終える時間帯は既に当室の施錠後となるので，学生のニーズに全面的には対応し難い。休日に関しても同様である（今年度は，管理するセンター職員の都合に応じて一部休日の使用に供することができた）。実習期間における部屋の使用（開放）のあり方や，その管理の方法については，次年度以降さらに検討していく必要がある。

③ その他

その他としては，前頁表中にも述べた通り，センター自体やセンターが関わって実施した企画・行事等においても使用した。以下に簡単に紹介する。

ア．ＩＣＴ教育に関する講習会　…　学内の教員・学生を対象として，ＩＣＴ教育機器の使用方法に関わる講習や，授業等における活用の方法に関しての研修を行った。

イ．内地留学生による自主研修会　…　茨城県教育委員会より現職教員が内地留学生（委託研修生）として前後期の２回，各３ヶ月間派遣される。期間中の研修・研究活動は，それぞれの研究教科に分かれ，かつ担当教員の指導の下で個別に行われることが中心となるが，お互いの研究や日頃の実践活動の交流を意図して，自主的に研修会が企画され，模擬授業を含む形で行われた。

ウ．優秀教員による公開授業　…　文部科学省に優秀教員として表彰された現職の先生を招き，学生を生徒役として，中学校を対象とした英語の授業を公開していただいた。優れた授業を学生に実際に体験させることが目的としたものである。

これらのうち、ア．ウに関しての詳細は別頁に報告されているので，そちらを参照されたい。

(3) 総括と今後の展望

以上，今年度の模擬授業室の活用状況について報告した。

前述の通り，模擬授業室は教員養成教育全般において有用性の高いものであることが，

初年度であるこの１年間の中で確認できた。今後は，授業・演習等での使用，教育実習に関わる自主研修を中心とする学生の使用などを想定し，使用条件の整備，設備・備品の充実等を図っていきたい。また模擬授業室の機能を生かした研修会や講習会の開催など，企画を充実させていきたい。

学部内の各教室から選出された教員による当センターの「協力教員会議」の中に「模擬授業室活用小委員会」を構成している。新設した模擬授業室をどのように活用していくか，今後の設備充実等の計画も含め，検討と支援を依頼している委員会である。今年度同委員会の委員長を務めていただいた木村勝彦教授（社会科教育教室）より以下のコメントをいただいた。

模擬授業室に期待すること

今年度から模擬授業室の活用が始まりました。当初はなにやら珍しい施設ができたという感じで見られていたようですが，センター関係者の尽力により，活用頻度が上がってきました。上記のように現在では学生による自主的な活用，学内の授業での使用，研修会，講習会等の研究会的な活用，といった形で活用範囲が広がりつつあります。開設されて以降，順調に模擬授業室の存在が学内で認知されてきたということができます。模擬授業室の活用は今後も改善を重ねつつ改善していくことが必要になると思われますが，さらには次のようなことが次の段階の役割として考えられるのではないかと思います。

一つは大学院での活用です。無論，現在でも一部の授業では使用されているようですが，教員養成の修士レベル化が予定されている現在，大学院で教育現場をリアルに想定した授業が今後は必要になっていくことが考えられます。そしてそのための演習施設として模擬授業室が位置づけられるのではないでしょうか。もちろんリアリティという面では教育現場そのものには勝てませんが，そのための補完的機能を持つことはできるはずです。

今ひとつは，こうしたことに伴って実験あるいは研究的側面への活用ということが考えられます。すなわち模擬授業室を使って教室を想定した生徒指導，教育方法等の研究が可能になるのではないかと考えるわけです。これまでに行われてきた研修会，講習会等もそうしたことの一例だと考えられますが，さらに発展した形での研究も可能なのではないでしょうか。

またそれ以外にも例えば模擬授業室を具体的な場として地域の学校と連携しつつ，地域の子どもの教育に利用するということも考えられると思います。ただし，その場合には模擬授業室自体が設備面を含めて地域の学校の教室を超える魅力を持つ必要もあるし，そうなった場合には”模擬授業室”という名称を超えてしまうことになるかも知れません。

いずれにせよ，模擬授業室の活用をどこまで考えるのか，また今後その機能をどのように発展させていくのかということについては学部全体の教員養成の方向性を見通しながら考えていく必要があると思われます。

（模擬授業室活用小委員会委員長　　木村勝彦）

2-4　教員採用内定者研修会の充実を目指して

教育実践総合センター　客員教授　横瀬　晴夫

教員採用試験に合格され、４月から新採教員として児童生徒の前に立たれる皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今の皆さんの心境は、どんな学校で、どんな児童生徒が待っているのか、授業をどのように進めようか、等々、期待に胸を膨らませているのではないでしょうか。また反面、「学生」という教えられる立場から「先生」という教える立場になる不安もいっぱい抱えていることでしょう。

今、学習指導や生徒指導、部活動指導等、現職でバリバリ活躍している先生方も、元をたどれば、誰しも新採教員として現在の皆さんのように、期待と不安を持って教壇に立ち、先輩の先生方や児童生徒、保護者の皆さんから様々なことを教えられ、一つ一つの課題を乗り越えて今の立場があるのです。最初から、自信満々で何事もできたわけではありません。どうぞ心配しないで下さい。

しかしながら、近年、厳しい採用試験をクリアし、晴れて教員としてスタートしたにもかかわらず、授業をうまく進められなくなったり、児童生徒や保護者との人間関係、同僚教員とのコミュニケーションがうまくいかないなど、教員としての自信を失ってしまう人も増えています。そして、途中から休職することになったり、あるいは条件付き採用期間である１年を経過せずに、退職していく若い人も出てきています。

そこで、教育総合実践センターでは、今年度初めての試みとして、平成２４年１１月中旬から１２月にかけて、「教員採用内定者のための研修会」を計画いたしました。その趣旨は、「採用内定者が不安に感じていることや、気になっていること等を自由に語り合うことで、教壇に立つ様々な不安を和らげたり、解消したり、教員としての心構えをつくる」ことを目的としました。残念ながら、急な計画であると同時に、内定者への周知徹底が十分でなく、参加者が極めて少ない結果となりました。

次年度は、教採講座の中でも充分にその趣旨を説明し、採用後、教員としてしっかりと歩んでいけるように採用前研修の充実を図っていきたいと考えています。

そこで、この４月から教壇に立つ皆さんに、アドバイスをしたいと思います。

新年度に入り、生活・環境の変化や人間関係から心身ともに疲れてくるのが五月の連休明けの頃です。よく言われる「五月病」です。体調不良や精神的疲労から憂鬱な精神状態になることです。多くの人が経験すると思います。私も想像していた教員生活と現実のギャップには少なからず悩みました。そんなときには、皆さん、周囲の人に「頼る」こと、謙虚に「学ぶ」ことをしましょう。

新しい世界ではできないこと、わからないこと、うまくいかないことは、当たり前のようにぶつかる壁です。だからこそ、今ある自分の現実をしっかりと受け止め、未熟な自分自身への反省とすればいいのです。不甲斐ない自分を責めるのではなく、マイナスに受け止めず、「頼る、学ぶ」ことを実行に移して行くことです。よく言われるように、人は一人で生きていけません。たくさんの人からのサポートをもらい、今の自分がいるのです。皆さんの周りの人を見て下さい。頼れる人ばかりです。人は頼られればうれしいものです。勇気を出して頼ってみましょう。勇気を出して頼ってみてください。

わからなければ「頼る」。知らなければ「学ぶ」。そこから更なる人間関係や知識の幅を広めていけるチャンスになるのです。頼る勇気・学ぶ喜びを実行しましょう。

（これは、バルセロナオリンピックの柔道金メダリストである古賀稔彦氏の弘前大学でのスポーツ医学博士学位論文参照です。）

最後に、皆さんが学習指導や部活動等で、児童生徒と、明るく、元気に、楽しい学校生活を送ることを期待しております。

2-5　やる気、本気、元気のある教員に！

教育実践総合センター　客員教授　横瀬　晴夫

私は、中学校の英語教員として教職をスタートし、中学校の校長として教職を終えました。校長として学校経営をする上で、何を一番に考えていたかというと、それは、教頭、教務主任、生徒指導主事を中心に、各教科の教員、養護教諭、栄養教諭、事務職員、給食の調理員さん等々、校内のスタッフ全員が一つになって生徒の教育活動全般に意欲的に取り組んでいけるような雰囲気づくりをすることだと考えていました。その中でも、生徒とのかかわりの中心にいるのが学級担任、教科担当の教員です。

どんな教員と児童生徒の教育に取り組んでいきたいかというと、「やる気のある教員」、「情熱的な教員」、「子どものために本気で取り組める教員」、そして、「明るく、常に前向きで、少しのことではへこたれない教員」でした。

特に、若手の教員には、失敗を恐れず、「本気」で取り組むことを求めました。若さとやる気は、児童生徒の心を開き、子どもの意欲を育てます。指導力に多少自信はなくとも、先生の「やる気・本気」は、子どもの心に響くからです。

教科や生徒指導等の指導力は、学校現場での実践、研修を通して身に付けていけばいいのです。都道府県が示している「求める教師像」を見ても、上述したような人材を求めていると思います。皆さんにはその資質が十分あると思っています。

しかしながら、「求められている教師像」は、ただ心がけただけでは身に付きません。それは、やはり体験が伴ってより身に付くものだと考えています。大学で行っている学校現場見学、教育実習等です。これに加えて、さらに学校を、先生を、児童生徒を、保護者を知るために、学校ボランティア活動等を、自らもっともっと求めて欲しいと思います。

過日、１月３０日（水）に実践センターにおいて、ボランティア活動報告会が開かれました。小学校での学習支援ボランティア、幼稚園での芋掘り、特別支援学校の文化祭ボランティア、茨城県警でのサポーター体験等々の報告がありました。

私は、７人の学生さんのプレゼンテーション力、発表力の見事さには、正直驚きとともに感動しました。それは、発表の背後にある体験による感動、自己啓発というか、ボランティアに参加する前と参加後の自分の生き方、考え方が違っていたことです。体験を通して得たことがしっかりとその人の考え方に根を下ろしているので、聞く者の心を打ったのです。４月から教員として児童生徒の前に立つ４年生にとっては、大きな自信になったことと思います。また、１・２年生においてもボランティアの感動体験を自分の言葉で発表し、将来教員になりたいと目を輝かせていたことには、ますます感動しました。

反省したこともありました。報告会の聴衆は，ボランティア活動に参加した人に限られていたことです。もっともっと多くの学生の皆さんに聞いて欲しかったことと、広報活動により積極的に努めていきたいと思いました。

これからの茨城、否、全国都道府県の教員を目指す学生の皆さんが、様々な体験を通して、教科の専門性の力を身に付け、指導力を高め、立派な教員になり、日本の未来を担う児童生徒の教育に携わることに自信と誇りを持てるよう、これからも共に頑張っていきたいと思っています。

2-6　教員になった先輩からの一言　―機会は自ら得るもの―

茨城大学教育学部附属小学校　教諭　清水　匠

本年度，茨城大学教育学部附属小学校に赴任しました。そこは，学生時代の私に「教師になろう」と思わせてくれた原点の地でもあります。私は茨城大学教育学部の音楽専修で４年間を過ごしました。毎日音楽の実技に追われ，その合間に教職に関する授業の単位をただただ積み重ねるといった生活で，これで本当に先生になれるのだろうかと疑問をもつ日々でした。そんな中，２つの貴重な機会を得ることができました。

一つ目は，１・２年次向けに教育実践総合センターが行っていたある授業です。現在も形を変えて行われているようですが，当時は何度も附属小学校や附属中学校を参観したり，子どもたちと一緒に活動して，先生とお話をしたりすることができる授業でした。そこで実際に学校の様子を見て，大変さを目の当たりにしました。子ども目線で憧れていた教師像から，大人目線で職業としての教師像を突き付けられました。その覚悟をもって３年次の教育実習に臨むことができたので，単に教師体験というだけではなく「進路の最終決断」として実習ができたきっかけになりました。今，教員として働いている原点です。

二つ目は，その１２日間の教育実習が終了した後の話です。同じクラス配当の３人で担任の先生にお願いをして，引き続き週に１回，総合的な学習の時間（附属小でいう，「ゆめ・ひびきの時間」）で子どもたちと一緒に活動させて頂いたのです。今，この立場になって思うと，私たちは週に１回足を運ぶだけでしたが，担任の先生からすれば多大なるご配慮があったことに気付きます。しかし，先生はいつも笑顔で迎えてくれました。私たちも先生方のかかわりから多くのことを学ぶことができました。かけがえのない機会を得ることができ，３人で意を決してお願いしてよかったなと思っています。

この２つの機会に恵まれたおかげで私は，有意義な４年間を過ごすことができました。しかし，後悔もあります。私は教職に関する様々な活動を楽しむあまり，専門教科である音楽の授業をおざなりにしていました。その結果，この職業に就いてから大変苦労をしています。合唱の指導や吹奏楽の楽器指導，人数に合わせた楽譜の編曲，譜面の無い曲の伴奏などなど，勉強不足のために上手に子どもたちを楽しませてあげることができません。仕事を始めてからではなかなか時間もなく，克服するのに苦労しています。専門教科の能力は，プロの教師としてなくてはならないものでしょうし，子どもとかかわる時の武器にもなります。ぜひ，大学の授業を大切にして欲しいと思います。

そこで，学生の皆さんに伝えたい。教科の専門性は，大学生活の中である程度は獲得していけるものだと思います。では，子どもとのコミュニケーション法は？　子どもの褒め方は？　叱り方は？　授業での話術は？　板書のコツは？　これは，現場に行かなければ絶対に学べません。書籍や講義でもその知識や方法は学べますが，まずは空気に触れること。現場百回，それが書籍や講義を理解する窓口となるでしょう。私だってまだまだです。

さあ学生の皆さん，「教師になりたい」と口に出すだけでなく，自ら行動を起こしてみてはいかがでしょうか。受け身の学生生活では不十分です。機会は勝ち取るものですよ。教育実践総合センターに集まるボランティアの案内を，有効に活用してみてはどうでしょう。

3　地域教育支援部門

3-1　教育学部のボランティア活動の意義

近年の傾向として、ボランティア活動を「単位化」し、それに参加した学生たちの成績に反映する大学もありますが、茨城大学教育学部では、「単位化」はしていません。それは「自主的に奉仕する」というボランティアの原義を大切にしたいと考えているからです。それにもかかわらず平成24年度も延べ389人という多数の学生諸君がボランティア活動に参加してくれています。

教育実践総合センターは、教育学部の学生を中心としたそれらボランティア活動の窓口を担当しています。その事業は、水戸市との連携による「水戸市学校支援活動」と水戸市以外の県内教育機関等を対象とした活動にわかれます。

いずれも「教育にかかわるボランティア」を対象としていますので、ときには地域からその趣旨にあわない申し込みをいただき、お断りすることもありますが、現在、学生が参加させていただいている活動は、幼稚園の保育補助、学習支援、学校等の行事補助等の「学校関係」でのボランティアからや夜間生活指導員、視覚障害者コンサート等の「社会福祉関係」、また歴史館などの公共施設でのお手伝いなどの「社会教育関係」と多岐にわたっています。

ボランティア活動は社会への奉仕であることはいうまでもありません。一方、それに参加する学生にとっては社会から多いに学ぶ機会でもあります。本学部では、その学びの結果を「ボランティア活動報告会」で見て取れます。たとえば特別支援学校のボランティアに参加した学生が「さまざまな障害をもつ方々が住みよい社会とはなにか」ということを、体験したからこそ説得性をもって報告してくれました。

いいかえれば学生のボランティアは、学校での「知識としての学び」を「具体的・実践的な学び」に変換する活動といってよいでしょう。そしてその「具体的・実践的な学び」が「知識としての学びの充実」を学生がさらに求めるという、スパイラル的な学習をもたらしています。

3-2　教育実践総合センター教育支援ボランティア活動報告

教育実践総合センターは、教育支援ボランティアの派遣を行っています。学校現場や地域の要望に積極的に応えられるよう、教育に関連したボランティア活動に学生を派遣しています。

この事業は2つに分かれます。１つ目は水戸市内の公立学校で活動する水戸市学校支援活動です。2つ目は地域の教育支援を行う県内教育支援ボランティアです。

今年度の水戸市学校支援活動の実活動人数は８１人です。派遣件数は通年募集・後期募集を併せて７５件、活動人数は８７人です。県内教育支援ボランティアの支援依頼数は８２件、派遣件数は６３件、活動人数は延べ３０１人となりました。二つのボランティアをあわせると３８８人の学生が活動しています。

教育支援ボランティアの派遣では、今年度初めて、実践センターがボランティア希望の学生に対してボランティア保険に加入する取り組みを始めました。水戸市社会福祉協議会のボランティア活動保険に実践センターから加入します。必ず保険に加入した状態で活動を始められる体制を整えました。保険の加入費用を実践センターが負担しているので、今後、登録者の増加に伴って、どのような加入体制にしていくのかが課題となっています。

昨年１０月、ボランティアの帰宅途中に自転車の転倒で怪我をした事例が1件報告されました。この件は保険の適用となり治療費が支払われました。学生からも保険に加入していて良かったという声が寄せられました。万が一に備えてやはり保険加入は必要であると感じています。

次に、ボランティア情報の周知ですが、掲示以外に今年度からメーリングリストを活用して、登録アドレスにボランティア情報を一斉配信したり、ホームページの情報更新を随時行う体制を整えました。メール配信希望の登録者数も１８８人にのぼっています。

平成２４年度　　教育支援ボランティア活動人数

区　分	支援希望数	派遣件数	活動人数
水戸市学校支援活動	１５３	７５	８７
茨城県内教育支援ボランティア	８２	６３	３０１
合　計	２３５	１３８	３８８

(1) 水戸市学校支援活動

水戸市学校支援活動は、水戸市教育委員会が市内の学校の要望をとりまとめ、前期（5月）と後期（10月）に実践センターへ募集一覧が送られてきます。実践センターは、5月の募集開始と同時に学生向けボランティアガイダンスを実施し、ボランティアに対する心構えやボランティアの流れについて説明します。ボランティア希望の学生にあらかじめ登録をしてもらい、登録したアドレスにボランティア情報を一斉配信しています。年度初めの一括申し込み以外にも、活動が可能になった時点で随時申し込みを受け付けています。

活動終了後は水戸市教育委員会から活動証明書が発行されます。

平成２４年度　水戸市学校支援活動　学生派遣状況　　（　）内は23年度数

派遣先	派遣学校園数	派遣延べ人数
幼稚園	５（　８）	２４　（１８）
小学校	１５（１１）	５３　（４５）
中学校	３（　４）	１０　（１４）
計	２３（２３）	８７　（７７）

【事業担当】
・水戸市総合教育研究所　　三宅　修　　河原井　信幸　　武内　祐子
・茨城大学教育学部
　・教育実践総合センター　　田中　健次　　岡部　千草　　横瀬　晴夫
　　鯉渕　良子　　藤根　孝子
　・総務係　　小野瀬　久美子

(2) 茨城県内教育支援ボランティア

茨城県内教育支援ボランティアは、茨城県内の教育関連機関から随時、募集を受付けています。内容も多様になりつつあります。実践センターでは内容や安全性の確認を行ない、教育支援ボランティアにふさわしい活動について、学生へ情報提供をしています。

今年度の県内教育支援ボランティアは、募集依頼件数８２件、派遣数６３件、派遣人数はのべ３０１人です。昨年度は募集依頼件数９３件、派遣数５３件、派遣人数は２１６人でしたので、今年度は８５人程多く活動に参加しています。募集依頼件数の減少は、教育支援ボランティアとしての活動内容を確認し、募集先を精査したことが考えられます。学生ボランティアへの問い合わせも増えており、地域からボランティアへの期待が高まってきています。募集先からも学生への感謝の言葉をいただいています。(募集内容はP. 29に掲載)

平成２４年度　県教育支援ボランティア派遣状況

派遣先	依頼件数	派遣件数	派遣人数	派遣内容
学校関係（幼・小･中･特別支援）	４７	４０	２１６	学習支援、行事支援（運動会・持久走大会・遠足）、健康診断補助等
教育委員会	7	5	8	学びの広場サポーター、陸上記録会補助等
社会教育関係	5	4	１３	放課後子ども教室学習アドバイザー、発明クラブアシスタント等
社会福祉関係	１４	9	４７	ゴールボール大会審判補助、視覚障害者コンサート支援、療育キャンプ補助等
その他	9	5	１７	茨城県警察大学生サポーター、少年少女合唱団活動支援等
計	８２	６３	３０１	

【事業担当】
教育実践総合センター　田中　健次　岡部　千草　横瀬　晴夫　鯉渕　良子　藤根　孝子

水戸市学校支援ボランティア募集一覧

1．通年分

＜幼稚園＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
K7	石川幼稚園	辻本惠子教頭	平成24年5月26日～平成25年1月までの9日間	2	9	18	9:00～14:00	B,C	園行事，園外保育等の補助	曜日・期間は調整する。
K8	石川幼稚園	辻本惠子教頭	平成24年6月15日～平成25年2月までの5日間	2	5	10	9:00～14:00	A	通常保育の補助	曜日・期間は調整する。
K9	石川幼稚園	辻本惠子教頭	平　成24年6/8，7/13，10/27，11/5，12/17，1/17の6日間	2	6	12	9:00～14:00	D	その他（未就園児とのふれあい事業の補助）	曜日・期間は調整する。
K10	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年7月7日	3	1	3	8:30～12:00	C	園行事の補助（夏祭りの安全確保）	ジャージ，トレーナー，帽子，名札
K11	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年9月上旬	3	1	3	8:30～14:00	B	園外保育の補助（ブドウ狩り，森林公園探検）	ジャージ，トレーナー，帽子，リュック，名札
K12	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年10/4，10/12，10/13	3	3	9	8:30～14:00	C	園行事の補助（運動会予行，準備，当日）	ジャージ，トレーナー，帽子，名札　10/13は12:00まで
K13	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年10月23日	3	1	3	8:30～14:00	B	園外保育の補助（遠足笠間方面）	ジャージ，トレーナー，帽子，リュック，名札
K14	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年11月6日	2	1	2	8:30～14:00	C	園行事の補助（学校へようこそ　保育補助等）	
K15	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年11月12日または26日	2	1	2	8:30～14:00	B	園外保育の補助（芸術館パイプオルガン見学）	
K16	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年5月，6月，10月	2	5	10	要相談	B	園外保育の補助（藤井川，栗拾い，散歩等）	
K17	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年7月中	3	1	3	要相談	C	園行事の補助（カレーパーティー）	女性を希望
K18	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年7月18日，11月28日	3	2	6	要相談	D	地域交流（水遊びの補助，焼き芋会）	
K19	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年9月3日～8日	3	6	18	調整中	C	園行事の補助（運動会の準備と当日の補助）	
K21	吉田が丘幼稚園	鈴木三枝教頭	平成24年6月2日	2	1	2	8:30～12:00	C	園行事の補助（幼小合同運動会での用事補助及び競技用具の出し入れ）	女性を希望
K22	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年5月25日	2	1	2	8:30～12:00	A	通常保育の補助	
K23	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年6月27日	2	1	2	8:30～11:30	B	園外保育の補助（ザリガニ釣り）	男女どちらでも可
K24	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年10月18日	2	1	2	8:30～14:30	B	園外保育の補助（秋の遠足）	男女どちらでも可
K25	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年10月27日	2	1	2	8:30～13:30	C	園行事の補助（親子運動会）	男性を希望，昼食は園で用意
K27	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	通年	2	3	6	要相談	A	通常保育の補助（スポーツ、音楽等の披露）	男女どちらでも可
K28	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成24年6月1日	6	1	6	8:30～14:00	C	園行事の補助（4・5歳児の遠足の支援）	男女どちらでも可
K29	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成24年10月20日	10	1	10	8:30～12:00	C	園行事の補助（運動会の準備・招集等）	男女どちらでも可
K30	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成24年11月中	4	1	4	9:00～11:30	C	園行事の補助（いもほりの手伝い）	男女どちらでも可

＜小学校＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
E1	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年5月下旬～9月末日までの毎週月曜日	2	10	20	15:00～17:00	F	その他（吹奏楽部の指導補助）	
E2	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年6月2日	2	1	2	8:00～16:00	C	学校行事の補助（運動会の準備、救護係の補助等）	
E3	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年9月11日～10月17日までの火曜日～金曜日の来校可能な日	8	10	80	15:00～17:00	F	その他（陸上競技の指導補助）	
E4	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年10月～11月で来校可能な日	6	10	60	8:40～15:20	A	授業における学習支援（音楽：合唱指導）	
E5	五軒小学校	石塚芳之教頭	平成24年5月22日～平成25年2月28日までの間で火曜日～金曜日の都合のよい日	3	20	60	16:00～17:00	F	その他（ピアノ伴奏，楽器の指導など合唱部，吹奏楽部の支援）	

E6	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年5月26日	5	1	5	8:00 ～ 16:00	C	学校行事の補助（運動会当日の競技等の補助）	雨天時は次の日、昼食は学校で用意
E7	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年7月30日，31日，8月1日	9	3	27	8:15 ～ 10:30	F	その他（夏季休業中の学習相談指導，１年・２年・３年・６年）	
E8	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年9月27日	1	1	1	6:30 ～ 17:30	B	校外学習の引率補助（６年生東京遠足）	雨天でも実施，昼食代と多少の入場料が必要，バス代は学校負担
E9	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年10月中	2	2	4	15:45 ～ 16:45	F	その他（陸上記録会の練習指導）	
E10	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年10月4日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（３年生の遠足）	雨天でも実施，昼食代と多少の入場料が必要，バス代は学校負担
E11	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年10月4日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（４年生の遠足）	雨天でも実施，昼食代と多少の入場料が必要，バス代は学校負担
E12	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年10月5日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（１年生の遠足）	雨天でも実施，昼食代と多少の入場料が必要，バス代は学校負担
E13	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年10月5日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（２年生の遠足）	雨天でも実施，昼食代と多少の入場料が必要，バス代は学校負担
E14	城東小学校	村岡康秀教諭	平成24年11月22日	5	1	5	8:30 ～ 12:30	C	学校行事の補助（持久走大会における競技時の補助）	雨天時は11月26日に延期
E15	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成24年5月25日	10	1	10	13:30 ～ 17:00	C	学校行事の補助（運動会前日の準備として，ライン引き・テント設営）	雨天時は派遣日が変更になる
E16	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成24年5月26日	10	1	10	8:00 ～ 16:00	C	学校行事の補助（運動会の支援）	雨天時は派遣日が変更になる
E17	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成24年7月23日～ 26日	10	4	40	10:00 ～ 12:00	F	夏休み水泳指導の補助	
E18	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成24年11月25日	10	1	10	8:30 ～ 12:00	C	学校行事の補助（マラソン大会での児童看護）	
E19	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年5月23日	5	1	5	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（２年生の遠足）	
E20	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年5月25日	5	1	5	6:30 ～ 17:30	B	校外学習の引率補助（６年生の遠足）	
E21	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年5月25日	5	1	5	8:00 ～ 15:00	B	校外学習の引率補助（１年生の遠足）	
E22	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年5月30日	5	1	5	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（３年生の遠足）	
E23	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年6月1日	5	1	5	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（４年生の遠足）	
E24	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年6月6日，7日	5	1	5	8:00 ～ 16:00	B	校外学習の引率補助（５年生の宿泊学習）	宿泊名簿を提出するため急募
E25	寿小学校	栗原和彦教諭	平成24年6月29日	2	1	2	15:00 ～ 17:00	C	学校行事の補助（授業参観後，学年・学級懇談会時の児童支援と看護）	
E28	上大野小学校	佐竹尚子教諭	平成24年5月30日～ 9月12日までの10日間	1	10	10	9:25 ～ 11:15	A	授業における学習支援（２年生の算数科国語科のノート指導）	
E29	柳河小学校	添田弘道教諭	平成24年6月2日	5	1	5	8:00 ～ 15:00	C	学校行事の補助（運動会の係補助）	
E30	柳河小学校	添田弘道教諭	平成24年6月より平成25年1月の木曜日	2	10	20	13:00 ～ 13:45	E	休み時間における児童生徒の遊び相手	
E31	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年5月2日～ 5月31日までの10日間	2	10	20	要相談	D	特別支援を要する児童の看護及び学習指導の補助，休み時間の遊び相手	アスペルガーや高機能自閉症児学習を研究している学生，または，特別支援教育に関心がある学生，一般学生も可
E32	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年6月1日～ 6月29日までの10日間	2	10	20	要相談	D	特別支援を要する児童の看護及び学習指導の補助，休み時間の遊び相手	アスペルガーや高機能自閉症児学習を研究している学生，または，特別支援教育に関心がある学生，一般学生も可
E33	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年７月2日～７月19日までの10日間	2	10	20	要相談	D	特別支援を要する児童の看護及び学習指導の補助，休み時間の遊び相手	アスペルガーや高機能自閉症児学習を研究している学生，または，特別支援教育に関心がある学生，一般学生も可

E34	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年10月1日～ 10月31日までの10日間	2	10	20	要相談	D	特別支援を要する児童の看護及び学習指導の補助，休み時間の遊び相手	アスペルガーや高機能自閉症児学習を研究している学生，または，特別支援教育に関心がある学生，一般学生も可
E35	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年11月1日～ 11月30日までの10日間	2	10	20	要相談	D	特別支援を要する児童の看護及び学習指導の補助，休み時間の遊び相手	アスペルガーや高機能自閉症児学習を研究している学生，または，特別支援教育に関心がある学生，一般学生も可
E40	石川小学校	豊田雅之教諭	平 成24年5月21日～ 5月26日 の６日間	3	6	18	8:30 ～ 12:10	A,B	１年生の体育科及び運動会練習の補助，運動会における児童看護	
E41	石川小学校	豊田雅之教諭	平成24年9月中旬～ 10月上旬	3	10	30	要相談	A	授業における学習支援（６年生 陸上運動）	
E42	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年9月14日，15日	2	3	6	14日14:00 ～ 17:00　15日 8:00 ～ 16:00	C	運動会の補助（14日準備，15日係の補助）	14日は男子を希望，15日は男女可
E43	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年9月下旬～ 10月中旬	6	5	30	14:00 ～ 16:00	F	その他（陸上記録会の練習指導補助）	陸上競技の経験者を希望
E44	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年10月19日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	遠足の引率補助（１年生 県植物園）	
E45	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年10月19日	1	1	1	8:00 ～ 16:00	B	遠足の引率補助（４年生 県ﾐｭｰｼﾞｱﾑﾊﾟｰｸ）	
E46	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年10月25日	1	1	1	8:00 ～ 16:00	B	遠足の引率補助（３年生 ひたちなか市交通公園等）	
E47	河和田小学校	大髙眞澄教頭	平成24年10月26日	2	1	2	8:00 ～ 16:00	B	遠足の引率補助（2年生 大洗ｱｸｱﾜｰﾙﾄﾞ）	
E48	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年5月中の3日間	4	3	12	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（４年生 算数で分度器の使い方の学習支援）	
E49	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年5月26日	5	1	5	8:30 ～ 16:00	C	学校行事の補助（運動会当日の児童看護・養護教諭の補助）	
E50	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年5月末～ 6月	10	5	50	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（２年生 算数でものさしを使用する活動支援）	
E51	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年6月～7月	5	3	15	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（２年生 体育で跳び箱，マット運動，水泳の支援）	
E52	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年9月～ 10月	3	5	15	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（６年生 陸上記録会練習の支援）	
E53	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年10月4日，5日	3	2	6	要相談	B	校外学習の引率補助（５年生 宿泊学習の支援）	
E54	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年10月～ 11月	5	2	10	8:30 ～ 12:20	B	校外学習の引率支援（２年生 生活科の学区探検）	
E55	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年11月22日	5	1	5	8:30 ～ 12:20	C	学校行事の補助（校内持久走大会の支援）	
E56	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年11月末～ 12月	10	5	50	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（２年生 かけ算の学習の支援）	
E66	笠原小学校	須貝裕子教諭	平成24年9月中	6	1	6	8:00 ～ 12:00	B	校外学習の引率補助（３年 逆川探検）	
E67	笠原小学校	須貝裕子教諭	平成24年10月中	6	1	6	9:00 ～ 12:00	B	校外学習の引率補助（写生会）	
E68	赤塚小学校	鈴木高英教諭	平成24年6月2日	5	1	5	8:30 ～ 15:00	C	学校行事の補助（運動会での用具準備，招集誘導等）	
E69	赤塚小学校	鈴木高英教諭	平成24年7月23日～ 27日	2	5	10	9:00 ～ 12:00	F	その他（泳げない児童に対する夏季休業中の水泳指導の補助）	
E70	赤塚小学校	鈴木高英教諭	平成24年11月2日	3	1	3	9:30 ～ 12:30	C	学校行事の補助（持久走大会における競技時の補助）	雨天変更
E71	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年7月23日～ 25日	2	3	6	9:00 ～ 12:00	F	その他（夏季休業中の水泳教室（3～6年生）における学習支援	予備日7月26日，雨天等が続いたときは，実施しないこともあり。
E72	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年5月下旬～平成24年７月下旬	1	8	8	要相談	D	特別支援学級における授業の学習支援（声かけ，読み，書きの支援，休み時間の遊び）	

E73	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年9月上旬～ 12月下旬	1	10	10	要相談	D	特別支援学級における授業の学習支援（声かけ，読み，書きの支援，休み時間の遊び）	
E75	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平　成24年6/27，9/5，10/17，12/5，平成25年1/16	2	5	10	8:10 ～ 8:30	F	その他（絵本等の読み聞かせ）	
E76	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年6月2日	5	1	5	7:30 ～ 15:30	C	学校行事の補助（運動会の係活動補助）	第１予備日6/3，第２予備日6/9
E77	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年5月～ 9月	1	8	8	午前中	D	特別支援学級の授業の支援（調理・栽培・学習等）	
E78	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年5月～ 9月	6	10	60	16:00 ～ 18:00	F	その他（金管バンドのパート練習指導）	
E79	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年6月5日～ 7月13日	2	10	20	週2日3時間	A	授業における学習支援（1年生　プール学習）	
E80	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成24年9月21日～ 10月19日	2	10	20	15:30 ～ 16:30	C	学校行事の補助（陸上記録会練習）	男女どちらでも可
E81	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成24年9月15日	10	1	10	8:00 ～ 16:00	C	学校行事の補助（運動会の支援）	昼食は学校で用意

＜中学校＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
J1	緑岡中学校	原田洋子教諭	平成24年5月14日～ 7月20日までの間で10日間	1	10	10	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（1年生　数学科における練習問題補助）	
J2	緑岡中学校	原田洋子教諭	平成24年9月10日～ 12月14日までの間で10日間	1	10	10	8:40 ～ 15:31	A	授業における学習支援（1年生　数学科における練習問題補助）	
J4	緑岡中学校	鈴木睦教諭	平成24年7月2日～ 7月20日までの間で10日間	1	10	10	2～5時間程度	A	授業における学習支援（1年生　技術科における木材製作の支援）	
J5	緑岡中学校	鈴木睦教諭	平成24年9月10日～ 9月28日までの間で10日間	1	10	10	2～5時間程度	A	授業における学習支援（1年生　技術科における木材製作の支援）	
J6	緑岡中学校	圷洋子教諭	平成24年6月11日～ 7月13日までの間で10日間	1	10	10	2時間程度	A	授業における学習支援（1年生　被服，2年生　調理実習の支援）	
J7	緑岡中学校	圷洋子教諭	平成24年11月中旬～ 12月中旬	1	10	10	2時間程度	A	授業における学習支援（1年生　被服，2年生　調理実習の支援）	
J8	緑岡中学校	小倉康寛教諭	平成24年5月14日～ 7月20日までの間で10日間	1	10	10	8:40 ～ 12:30	A	授業における学習支援（1～3年生の理科　実験補助及び環境整備）	
J9	緑岡中学校	小倉康寛教諭	平成24年9月10日～ 12月14日までの間で10日間	1	10	10	8:40 ～ 12:31	A	授業における学習支援（1～3年生の理科　実験補助及び環境整備）	
J10	緑岡中学校	小林恭子教諭	平成24年5月14日～ 7月20日までの間で10日間	3	10	30	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（1～3年生の英語科　ﾜｰｸｼｰﾄの採点，ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞや英検に向けての支援）	
J11	緑岡中学校	小林恭子教諭	平成24年9月10日～ 12月14日までの間で10日間	3	10	30	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（1～3年生の英語科　ﾜｰｸｼｰﾄの採点，ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞや英検に向けての支援）	
J12	緑岡中学校	小林恭子教諭	平成24年1月10日～ 3月15日までの間で10日間	3	10	30	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（1～3年生の英語科　ﾜｰｸｼｰﾄの採点，ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞや英検に向けての支援）	
J13	見川中学校	藤田晃教頭	平成24年6月中旬～ 7月下旬	4	10	40	要相談	A	授業における学習支援（2年生　家庭科でミシン操作の技術指導の補助）	
J14	千波中学校	市毛豊教頭	平成24年6月上旬～7月下旬	2	7	14	要相談	A	授業における学習支援（数学科の授業補助）	
J15	千波中学校	市毛豊教頭	平成24年9月上旬～ 12月下旬	2	10	20	要相談	A	授業における学習支援（数学科の授業補助）	

２．後期分

＜幼稚園＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
K34	寿幼稚園	井上規美江教諭	平成24年11月15日（木）	2	1	2	8:30 ～ 14:30	B	園外保育引率補助（森林公園・リンゴ狩り）	
K35	寿幼稚園	井上規美江教諭	平成24年12月６日（木）	3	1	3	8:30 ～ 12:00	C	園行事の補助（生活発表会）	
K36	千波幼稚園	菊地昌子教頭	平成25年１月11日（金）	4	1	4	8:30 ～ 13:30	C	園行事の補助（もちつき）	男性を希望
K37	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年10月3,12,13日	3	3	9	8:30 ～ 14:00	C	園行事の補助（運動会予行，準備，当日）	ジャージ上下，帽子，名札
K38	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成24年12月4，7日	2	2	4	8:30 ～ 12:00	C	園行事の補助（発表会の活動補助）	ジャージ上下，帽子，名札
K39	酒門幼稚園	中村広子教頭	平成25年2月6日（水）	2	1	2	8:00 ～ 14:00	B	園外保育引率補助（県民文化センター）	ジャージ上下，帽子，リュック，名札
K40	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年１0月・１１月	2	2	4	要相談	B	園外保育引率補助（神社散歩，公園散歩）	
K41	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年11月28日（水）	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（焼き芋）	
K42	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成24年12月10日～ 13日	3	4	12	9:30 ～	C	園行事の補助（発表会準備）	
K43	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年11月6～9日	2	4	8	要相談	A	保育補助	
K44	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年12月15日（土）	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（発表会）	
K45	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年12月19日（水）	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（もちつき）	
K46	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成25年2月8日（金）	2	1	2	要相談	B	園外保育引率補助（観劇）	
K47	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成25年2月22日（金）	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（卒園式準備）	
K48	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成25年1月	4	1	4	9:00 ～ 11:30	B	園行事の補助（凧揚げ）	

＜小学校＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
E82	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年11月～平成25年２月末日	1	10	10	8:40 ～ 12:15	F	その他（中国語の通訳）	
E83	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成24年11月～平成25年２月末日	1	10	10	15:00 ～ 17:00	F	その他（吹奏楽部の指導補助）	
E84	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年10月12日（金）	5	1	5	9:20 ～ 12:10	B	校外学習の児童支援（まちたんけん）	
E85	緑岡小学校	武藤信一教頭	平成24年11月22日（木）	5	1	5	8:00 ～ 13:00	C	校内持久走大会の競技上の補助	
E86	寿小学校	栗原和彦教諭	平成24年10月2，3日	3	2	6	15:00 ～ 17:00	C	陸上記録会練習補助	
E87	寿小学校	栗原和彦教諭	平成24年12月1日（土）	2	1	2	15:00 ～ 17:00	C	授業参観後の児童看護	
E88	寿小学校	栗原和彦教諭	平成25年2月22日（金）	2	1	2	15:00 ～ 17:00	C	授業参観後の児童看護	
E89	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成24年12月中	1	10	10	8:30 ～ 15:30で都合のつく時間	D	特別支援を要する児童の看護，学習指導等	
E90	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成25年１月中	1	10	10	8:30 ～ 15:30で都合のつく時間	D	特別支援を要する児童の看護，学習指導等	
E91	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成25年2月中	1	10	10	8:30 ～ 15:30で都合のつく時間	D	特別支援を要する児童の看護，学習指導等	
E92	酒門小学校	金澤久美子教頭	平成25年3月中	1	10	10	8:30 ～ 15:30で都合のつく時間	D	特別支援を要する児童の看護，学習指導等	
E93	石川小学校	豊田雅之教諭	平成24年11月２～ 28日までの水,金	1	7	7	8:40 ～ 12:10	A	授業における学習支援（4年生のマット，跳び箱）	
E94	石川小学校	豊田雅之教諭	平成25年2月1～ 27日までの水,金	1	7	7	8:40 ～ 12:10	A	授業における学習支援（4年生のマット，跳び箱）	
E95	石川小学校	豊田雅之教諭	平成24年12月5～ 19日までの3日間	1	3	3	9:30 ～ 12:10	A	授業における学習支援（2年生のマット，跳び箱）	
E96	石川小学校	豊田雅之教諭	平成24年11月～平成25年2月	1	10	10	要相談	A	授業における学習支援，休み時間の見守り（1年生）	

E97	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年12月中	2	3	6	8:00 ～ 16:00	A	授業における学習支援（1年生の算数）	
E98	千波小学校	圓尾康子教諭	平成25年1月～2月	2	3	6	8:30 ～ 12:20	A	授業における学習支援（2年生の体育）	
E99	赤塚小学校	鈴木高英教諭	平成24年11月17日（土）	5	1	5	9:30 ～ 12:30	C	赤小まつり補助	
E100	赤塚小学校	鈴木高英教諭	平成25年1月30日（水）	3	1	3	9:30 ～ 12:30	C	なわとび大会補助	
E101	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年10月3日～	1	10	10	要相談	A	授業における学習支援（4年生の体育）	
E102	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年11月上旬～中旬	1	6	6	要相談	A	授業における学習支援（3年生の体育）	
E103	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成24年10月～　木曜日	1	10	10	9:30 ～ 10:15	A	授業における学習支援（1年生の体育）	
E104	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成25年1月～3月	1	9	9	8:30 ～ 12:15	A	授業における学習支援（算数，国語）	
E105	吉沢小学校	浅野尚子教諭	平成25年1月～3月	1	10	10	8:30 ～ 12:15	D	特別支援学級の授業の学習支援（読み・書き）	
E106	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年10月～平成25年2月	1	10	10	8:30 ～ 12:00	D	特別支援学級の授業の支援（調理，栽培，学習）	
E106	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成24年10月～平成25年2月	1	10	10	8:30 ～ 12:00	D	特別支援学級の授業の支援（調理，栽培，学習）	

＜中学校＞

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容		備考
J16	第一中学校	竹貫裕文教諭	平 成24年11月 ～ 平 成25年 2 月 火，金	1	10	10	8:40 ～ 12:30	A	授業における学習支援（理科）	
J17	第一中学校	竹貫裕文教諭	平成24年11月～平成25年2月	1	10	20	8:40 ～ 12:30	A	授業における学習支援（特別支援学級の生徒）	
J18	第一中学校	竹貫裕文教諭	平成24年11月～平成25年2月　土	1	10	10	8:30 ～ 11:30	F	部活動の合唱支援	
J19	第一中学校	竹貫裕文教諭	平 成24年11月 ～ 平 成25年 2 月 火，水	1	10	10	火：13:40～15:30 水：8:40～10:30	A	授業における学習支援（英語）	
J20	第一中学校	竹貫裕文教諭	平成24年11月～平成25年2月	1	10	10	要相談	A	授業における学習支援（1年生家庭科）	
J21	第一中学校	竹貫裕文教諭	平成24年11月～平成25年2月	1	10	10	要相談	A	授業における学習支援（3年生家庭科）	
J22	第一中学校	竹貫裕文教諭	平成24年11月～平成25年2月	1	10	10	要相談	F	保健室でアンケート集計，掲示物作成	養護教員課程を希望
J23	緑岡中学校	原田洋子教諭	平成25年1月～3月	1	10	10	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（1年生数学）	
J24	緑岡中学校	小倉康寛教諭	平成25年1月～3月	1	10	10	8:40 ～ 12:30	A	授業における学習支援（理科）	
J25	緑岡中学校	小林恭子教諭	平成25年1月～3月	1	10	10	8:40 ～ 15:30	A	授業における学習支援（英語科）	
J26	千波中学校	市毛豊教頭	平成25年1月～3月	1	10	10	要相談	A	授業における学習支援（数学）	

水戸市学校支援活動　活動内容

通年募集

支援活動No	派遣先（学校・園名）	活動の内容
K7	石川幼稚園	園行事、園外保育の補助
K8	〃	通常保育の補助
K9	〃	未就園児とのふれあい事業の補助
K19	飯富幼稚園	園行事の補助（運動会準備と当日補助）
K25	稲荷第二幼稚園	園行事の補助（親子運動会）
K27	〃	通常保育補助
K29	内原幼稚園	園行事の補助（運動会準備・招集等）
K30	〃	園行事の補助（芋掘り）
E1	三の丸小学校	その他（吹奏楽部の指導補助）
E2	〃	運動会の準備、救護係の補助等
E4	〃	授業における学習支援（合唱指導）
E5	五軒小学校	その他（ピアノ伴奏、楽器の指導等）
E7	城東小学校	夏期休業中の学習相談指導
E11	〃	校外学習の引率補助（4年生遠足）
E13	〃	校外学習の引率補助（2年生遠足）
E16	浜田小学校	学校行事の補助（運動会）
E18	〃	マラソン大会での児童看護
E22	緑岡小学校	校外学習の引率補助（3年生遠足）
E29	柳河小学校	運動会の係補助
E30	〃	休み時間の児童生徒の遊び相手
E35	酒門小学校	特別支援を要する児童の看護及び学習指導補助
E41	石川小学校	授業における学習支援（6年生陸上運動会）
E42	河和田小学校	運動会の補助（14日準備、15係補助）
E44	〃	遠足の引率補助（1年生、県植物園）
E47	〃	遠足の引率補助（2年生）
E49	千波小学校	運動会の児童看護等
E50	〃	授業における学習支援（算数）
E51	〃	授業における学習支援（体育）
E52	〃	授業における学習支援(陸上記録会練習)
E53	〃	校外学習の引率補助
E54	〃	校外学習の引率支援（2年生生活科）
E55	〃	学校行事の補助（持久走大会支援）
E56	〃	授業における学習支援（2年生かけ算）
E68	赤塚小学校	学校行事の補助（運動会）
E73	吉沢小学校	特別支援学級における授業の学習支援
E75	〃	絵本等の読み聞かせ
E76	堀原小学校	運動会の係活動補助
E77	〃	特別支援の授業支援（調理、栽培、学習等）
E80	稲荷第二小学校	学校行事緒補助（陸上記録会練習）
J1	緑岡中学校	授業における学習支援（数学）
J2	〃	授業における学習支援（数学）
J8	〃	授業における学習支援（理科）
J15	千波中学校	授業における学習支援（数学）
合計	学校園数　20	活動数　43

後期募集

支援活動No	派遣先（学校・園名）	活動の内容
K36	千波幼稚園	園行事の補助（もちつき）
K44	稲荷第二幼稚園	園行事の補助（発表会）
K45	〃	園行事の補助（もちつき）
K46	〃	園外保育引率補助(観劇)
K47	〃	園行事の補助（卒園式準備）
K48	内原幼稚園	園行事の補助（凧あげ）
E83	三の丸小学校	吹奏楽部の指導補助
E87	寿小学校	授業参観の児童看護
E88	〃	授業参観後の児童看護
E89	酒門小学校	特別支援を要する児童の看護、学習指導
E90	〃	特別支援を要する児童の看護、学習指導
E91	〃	特別支援を要する児童の看護、学習指導
E92	〃	特別支援を要する児童の看護、学習指導
E94	石川小学校	授業における学習支援（4年生マット、跳び箱）
E95	〃	授業における学習支援（2年生マット、跳び箱）
E96	〃	授業における学習支援（1年生）
E97	千波小学校	授業における学習支援（1年生算数）
E98	〃	授業における学習支援（2年生体育）
E99	赤塚小学校	赤小まつり補助
E100	〃	なわとび大会補助
E104	吉沢小学校	授業における学習支援（算数・国語）
E105	〃	特別支援学級の学習支援（読み・書き）
E106	堀原小学校	特別支援学級の授業支援
J17	第一中学校	授業における学習支援（特別支援学級）
J18	〃	部活動の合唱支援
J19	〃	授業における学習支援（英語）
J20	〃	授業における学習支援（1年生家庭科）
J21	〃	授業における学習支援（3年生家庭）
J22	〃	保健室でアンケート集計、掲示物作成
J23	緑岡中学校	授業における学習支援（1年生数学）
J25	〃	授業における学習支援（英語科）
J26	千波中学校	授業における学習支援（数学）
合計	学校園数　14	活動数　32

県内教育支援ボランティア募集一覧

No.	ボランティア名	募集先	参加人数
1	さよなら原発4．1大集合inいばらき	水戸翔合同法律事務所	
2	東日本ゴールボール大会競技役員・補助	日本ゴールボール協会	13
3	西山研修所施設ボランティア	茨城県立西山研修所	
4	学習支援	若草園	3
5	学びの広場サポーター	茨城県教育委員会 市町村教育委員会	3
6	健康診断・内科検診補助	水戸市立見川中学校	2
7	体育授業サポーター派遣事業	茨城県教育庁保健体育課 →保健体育教育教室へ	
8	朝の読み聞かせ	水戸市立吉沢小学校PTA →水戸市学校支援ボランティアへ	
9	保育補助	教育学部附属幼稚園	5
10	水戸少年少女発明クラブアシスタント	水戸少年少女発明クラブ 事務局	8
11	友特サポーター	県立友部特別支援学校	4
12	理科支援員	城里町教育委員会	
13	高等学校学習支援員	茨城県教育委員会	1
14	小学校陸上記録会競技役員補助	小美玉市立小川小学校	3
15	ボランティアスクール	茨城県立水戸特別支援学校	
16	運動会支援	水戸市立常磐小学校	
17	寄宿舎学習ボランティア	茨城県立水戸特別支援学校	
18	遠足引率補助	教育学部附属幼稚園	5
19	運動会支援	大洗町立大貫小学校	1
20	学習支援	水戸市立渡里小学校	60
21	運動会支援	水戸市立渡里小学校	8
22	水戸市障害者グループ外出支援	水戸市障害福祉課	
23	ボランティア教室	茨城県立勝田特別支援学校	2
24	個別学習支援	ひたちなか市立津田小学校	2
25	特別支援	水戸市立常磐小学校	1
26	学びの広場サポーター	水戸市立城東小学校	1
27	『集まれ!!お江戸きっず』ボランティア	映画『桜田門外の変』オープンロケセット・記念展示館	1
28	学びの広場サポーター	水戸市立渡里小学校	9
29	学びの広場サポーター	水戸市立浜田小学校	3
30	宿泊学習引率ボランティア（第3学年）	教育学部附属中学校	2
31	宿泊学習引率ボランティア（第2学年）	教育学部附属中学校	1
32	学びの広場サポーター	水戸市立緑岡小学校	7
33	学びの広場サポーター	水戸市立河和田小学校	3
34	ボランティア養成講座	茨城県立水戸飯富特別支援学校	2
35	ボランティア講座	日立市立日立特別支援学校	1
36	学習支援	水戸市立新荘小学校	1
37	保健室ボランティア	水戸市立緑岡中学校	1
38	夜間生活指導員（嘱託職員）	茨城県立茨城学園	1
39	学びの広場サポーター	笠間市立大原小学校	
40	夏休み学習支援	笠間市立友部中学校	6
41	夕涼み会ボランティア	教育学部附属幼稚園	8
42	親子療育キャンプボランティア	茨城県ことばを育む会	12
43	英会話ボランティア	水戸市立新荘小学校	7
44	夏休み学習アドバイザー	水戸市立鯉淵小学校	1
45	学習支援(体育も含む)	NPO法人　フリースクール トライアル	7
46	夏休み学習支援	笠間市立稲田中学校	
47	夏休み学習支援(放課後子ども教室)	水戸市立緑岡小学校 茨城県生涯学習・社会教育研究会	3
48	キャンパスエイド	教育学研究科学校臨床 心理専攻	
49	いばらきユースプロジェクト	茨城県青少年協会	
50	夏休み学習相談補助	常陸太田市立峰山中学校	1
51	宿泊保育引率補助	赤塚みなみ保育園	
52	学習支援	ひたちなか市立高野小学校	2
53	留学生サポートボランティア	留学生交流課	
54	茨城県特体連スポーツ大会 競技・審判補助	茨城県特別支援学校体育 連盟	1
55	第5回全国精神保健福祉家族会 ～みんなねっと茨城大会～ボランティア	みんなねっと茨城大会実行委員会 事務局	
56	放課後学習教室サポーター	大洗町教育委員会学校 教育課	
57	理科学習支援	水戸市立常磐小学校	1
58	キッズワールドボランティア	教育学部附属小学校	10
59	「渡里元気村」ボランティア	水戸市立渡里小学校	19
60	友陽祭ボランティア	茨城県立友部特別支援学校	8
61	合唱団サポート	ピッコロ少年少女合唱団	3
62	子どもホットラインサポートスタッフ	茨城県教育委員会	
63	第1回タウンモビリティin水戸フェス ボランティア	NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ	2
64	学習支援	若草園	1
65	吹奏楽部指導補助	水戸市立三の丸小学校	1
66	個別学習支援	ひたちなか市立市毛小学校	4
67	園外保育補助（サツマイモ堀り）	附属幼稚園	5
68	持久走大会活動支援	水戸市立渡里小学校	13
69	PTAもちつき会ボランティア	茨城県立友部特別支援学校	2
70	大学生サポーター	茨城県警察少年課 少年サポートセンター	6
71	ミニバスケット少年団指導補助	五軒ミニバスケット少年団 女子	1
72	個別学習支援	茨城町立駒場小学校	1
73	学習支援	水戸市立石川小学校	1
74	保育活動補助	附属幼稚園	2
75	夜間生活指導補助職員（非常勤嘱託）	茨城県立茨城学園	5
76	学習支援	水戸市立第一中学校	2
77	視覚障害者コンサートボランティア	茨城県視覚障害者の 生活と権利を守る会	3
78	白浜すくすくスクール学生ボランティア	茨城県立白浜少年自然の 家	
79	学習支援	ひたちなか市立佐野小学校	2
80	「スポーツ鬼ごっこ海浜公園大会」の 運営・進行補助	国営ひたち海浜公園	6
81	留学生サポートボランティア	茨城大学留学交流課	
82	サイクルスポーツフェスティバル2013 ボランティア	ひたちなか地区PRイベント 推進委員会	1

募集依頼数　82件
活動数　　63件　　活動延べ人数　301人

3-3　水戸市教育委員会からの学校支援活動報告

水戸市教育委員会

1　支援活動の実施状況

区　分	活動人数	活動日数	主な活動内容
幼稚園　　５園	２４人	４３日	通常保育補助，園行事（親子運動会，餅つき等）支援　園外保育引率補助　等
小学校　１５校	５３人	２６６日	各教科の学習支援，学校行事（運動会，持久走大会等）支援，その他児童の支援　等
中学校　　３校	１０人	９５日	各教科（数学，理科，家庭等）の学習支援，部活動実技指導　等
計　２３校（園）	８７人	４０４日	

※　ボランティア証明書交付人数（実活動人数　８１人）

2　幼稚園，小・中学校の支援活動実施後の感想，要望

（１）幼稚園

・　担任の補助活動や園児と一緒に活動し，園児一人一人が元気いっぱいのびやかで決まりのある園生活を過ごすことができた。
・　４歳児，５歳児に対して，担任の補助を行いながら，子どもとの関わり方を学んでいた。
・　職員数が少ないため目が届きにくい場の補助をしてもらい，生活発表会を行う際に園児の安全面に気をつけて，見てもらったので大変助かった。
・　親子運動会で，朝早くから来園してもらい，準備補助（ゴールテープ，用具の準備や片付け等）を行ってもらい，機敏に行動してもらって大変助かった。来年も是非お願いしたいと思う。
・　餅つき会の準備や片付け，餅つきなどを手伝っていただいたり，園児の餅つきの支援をしていただいたりした。園児の中に入り，積極的に話をしたり，園児の世話をしたりする姿が見られた。

餅つきの支援活動

（２）小学校

・　運動会では，すり傷等のけがが多くなるため，学生さんに来てもらって大変助かった。また，積極的に準備や片付けも手伝ってもらいスムーズに行事を終えることができた。
・　音楽の授業の学習支援で，進んで合唱の伴奏を引き受け，低学年児童の元気な歌声を引き出し，音楽の楽しさを伝えてくれた。
・　夏季休業中に行う学習相談は，児童自身が苦手としている分野を重点的に学習させていくので，個に応じた支援をするために一人でも多く指導者が必要になります。大変，丁寧で寄り添いながら対応していただき，学力の定着につながった。ありがとうございました。
・　校外学習では，多くの目で子どもたちを見守ることが，充実した活動や事故の未然防止につながる。子どもたちの安全な校外活動ができるよう，細かな気遣い，言葉かけ，そして寄り添いながら支援をしてくれた。ありがとうございました。
・　軽度発達障害がある児童の支援にあたってもらった。特別支援教育専攻の学生さんだったので，きめ細かに，しかも手際よく支援をしてくれた。
・　予定よりも３０分も早く来校し，運動会の準備や後片付けにも率先して取り組んで

くれた。とても精力的に働いてくださって大変助かった。できれば，学校が希望している人数の学生を派遣していただければ幸いです。

・　陸上競技会の練習の補助として，短距離，ハードル走，長距離，走り高跳び，走り幅跳び，ボールスロー，リレーの技術指導を行っていただき，とても助かった。児童への対応も，厳しさの中に優しさのある指導をしてくれた。
・　大変意欲的で，積極的に児童に関わろうとする姿が見られた。服装や態度もしっかりしていた。体育の授業を中心に国語，算数，音楽の学習支援にも取り組んでくれた。活動を通していろいろなことを吸収しようとする姿が見られ，学校側の要望に応えようと活動してくれたことが非常に嬉しかった。
・　とても積極的に児童に関わってくれた。しかし，大学の授業の関係で，活動時間に制限があり，１時間しか活動できなかった。学校側で時間割を調整する必要もあった。もう少し時間の余裕のある時期に支援活動をお願いしたかった。

吹奏楽部の指導補助

夏季休業中の補充学習

校外学習の引率補助

（３）中学校

・　数学の授業で，主に練習問題を解く作業で生徒の支援をお願いした。多くの生徒へかかわることができ，大変有効であった。１，２学期と継続して活動を行ってくれたので，生徒との関わりもスムーズであった。
・　主に実験の際の補助として，つまずいているグループや生徒を中心に支援をしていただいたお陰で，実験のデータがしっかりとることができ，学習の効果が高まった。
・　家庭科の授業で，ミシンの操作支援をお願いした。教科担任がグループ間の指導をしている時に，ミシンの操作につまずいている生徒の支援をしていただき，学習計画通りにものづくりが進みとても助かった。学校を知る上では，学生の方にも勉強になってよかったのではないかと思う。

３　教育委員会からの感想，要望

大学等との連携による学校教育支援活動は，平成１７年に協定を締結してから，多くの学校（園）で様々な活動を行ってきました。支援活動を行っている様子を参観させていただき，熱心に子どもたちに関わっている姿，学校行事の準備や片付けに汗を流している姿などを見させていただきました。活動している学生に話を聞くと「体験を通して，勉強をするために活動を希望しました。」「教育実習とは，違った視点で関わることができ学ぶことが多いです。」との回答でした。素晴らしいことです。この支援活動を行い，現在は教職に就いて立派に学校現場で活躍をしている方もおります。

毎年，学校（園）からは数多くの支援活動の希望が出されており，学生の熱意と若い力に対する期待は大きいです。学生の皆様には，学校現場に関わる絶好の機会でもあり，同じ学校（園）で継続的な活動をすることで，子どもたちとの信頼関係を築くこともできるでしょう。是非，積極的に学校支援活動のボランティアに参加をしていただきたいと思います。

3-4　平成２４年度ボランティア活動報告会

平成25年1月30日（水）3時限目、模擬授業室において、平成２４年度ボランティア活動報告会が行われました。活動報告に先立ち、本年度より発行されることになった「教育支援ボランティア活動証明書」が田中健次実践センター長から授与されました。また、ボランティア活動の内容や感想などが、7名の学生から報告されました。いずれの報告からも、学校の様子がわかったこと・児童生徒との交流が有意義であったこと・社会の多くの人々とかかわりが持てたこと等、活動が充実していたことがわかりました。さらに、自分自身の生き方を振り返ったり、ものの見方や考え方が幅広くなったり、新たな行動を起こすまでのエネルギーとなったり、活動した一人一人の人間的な成長まで感じられるような立派な内容の活動報告でした。最後に、横瀬晴夫実践センター客員教授が、内容の深い報告であったことを称賛するとともに、「この経験を個人のものにとどめずさらに広げていく場を考えていきたい」と総括しました。

ボランティア活動報告会

1. 日　時　平成２５年１月３０日（水）１３：００～１４：３０
2. 場　所　教育学部Ａ棟模擬授業室（Ａ２２４）
3. 内　容

司会　教育実践総合センター専任教員　岡部千草

１）教育実践総合センター長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田中健次
２）教育支援ボランティア活動証明書授与
３）ボランティア活動報告
①水戸市学校支援ボランティア ・・・・・・・・・・・・・ 大部美月（社会4年）
②附属幼稚園芋掘り・英会話ボランティア ・・・・ 石井玲奈（技術3年）
③友部特別支援学校友陽祭ボランティア ・・・・・・ 根本真希（国語2年）
④東日本ゴールボール大会審判補助・・・・・・・・・・ 小野清敬（数学2年）
⑤茨城県警大学生サポーター・・・・・・・・・・・・・・・・ 松井亜沙美（特支2年）
⑥親子療育キャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 渡辺　香（家庭1年）
⑦水戸市理科支援員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 岩崎　舞（英語4年）
４）質疑応答
５）総括・・・・・・・・・・・・・・・・ 教育実践総合センター客員教授　横瀬晴夫

教育支援ボランティア活動証明書授与

報告の様子

3-5　ボランティアに参加した学生の声

１．水戸市学校支援活動

【幼稚園】

○通常保育・行事等のお手伝い

行事のお手伝いや通常保育、引越のお手伝い、環境整備など様々なお手伝いをさせていただきました。積極的に子どもとのふれあいをするよう言って下さり、子どもたちに顔と名前を覚えてもらえるくらい仲良くなれました。幼稚園教諭というのはやはり「教諭」なので、子どもたちのお手本にならなくてはならないし、優しいだけではいけないのだと感じました。いけないことは厳しく注意して、褒めるところはオーバーすぎるくらいに褒めてあげることが大切なのだと思いました。さらに命を預かっているということを忘れずに安全面には最大限の注意を払いたいと思いました。

○園行事の補助　運動会補助

幼稚園の運動会準備・計画はこんなに大変なのかと思った。競技の見せ場、誘導、時間・練習など細かく計算されていて、しかも用具は安全に使うかわいらしいもの。制作にはそうとうの時間やお金がかかっているのではと思った。とても工夫されていて、これからの資料づくりに参考になった。実際に子どもと保護者の様子も間近で見ることができ、大変良い経験ができた。先生方もやさしくまた行きたくなった。

【小学校】

○校外学習の引率補助

今回の活動を通して、子どもたちが安全に怪我なく遠足を楽しむために、先生方がどのように動き、どのようなことに配慮しているのかがわかりとても勉強になった。
また、子どもたちも、障害のある子を仲間外れにすることなく「一緒に頑張ろう」などと声をかけながら活動していて、学級経営の面ですばらしいと感じる部分がたくさんあった。今回、この活動を経験することができて、本当に良かった。

小学校の現場には行ったことがあっても、遠足の引率は初めてだったので多くの児童を引率する大変さがわかりました。しかし、児童たちはとても楽しそうにしていたので、今回のボランティアに参加して良かったなと思いました。

○運動会支援

運動会の児童看護では、主に養護教諭の補助としてけがの手当てや内科的主訴の児童に対しての対応を行った。また実習に行く前であったのでどのように対応するのか、何に気をつけなければいけないのかなど、とても学ぶものがたくさんあった。また、児童がどのような場面でどのような箇所をけがしてくるのかわかった。

○授業の学習支援

学習支援となっていたので、授業がわからないで悩んでいる児童に教えていく形だと思っていたが、2学期のまとめの時期ということで、プリントをやったりドリルを終わらせたりと、授業形式ではなく自主の形を取っていたので、補助くらいの活動しか行わなかったのだが、日頃の大学の講義では得ることのできない貴重な時間を過ごすことができ、とても有意義な2日間であった。

周りの児童に体力・学力の面でついていけない児童の支援を行った。こうした体力・学力面での遅れは、過去から現在にかけての積み重ねが大きく影響していると思われる。教師としては、そうした児童を早期に発見して、保護者との連携が求められると感じた。

ボランティアに参加してみて、児童の何事にも一生懸命に取り組もうとする姿を見て、小学校の教師はやりがいがあると感じた。教育実習では5年生を担当したので、違った学年をみるのはとても新鮮で勉強になった。また、同じ学年でもクラスによって指導の実態は異なっているのだと実感した。

○特別な支援を必要とする児童の個別支援

通常学級に入っての活動だったので、特定の児童だけでなく多くの児童と関れたことがとても良かった。活動期間中は、支援が必要な児童に対して自分は何ができるのか、また何ができたか考えることが多くあったが、児童の素直な反応や言葉がとてもうれしく、やってよかったと思った。個に応じた支援がどれだけ必要か分かり勉強になった。

○合唱練習指導補助

教育実習前に、小学校で合唱指導ができたことは本当に良かったと思った。失敗だらけであったが先生方にアドバイスをいただきながら毎日工夫して指導できた。今回のボランティアで自分に足りないものがわかったので、ここで学んだことを生かして実習に自信を持って臨みたいと思う。

○夏休みの学習サポート

児童が算数に一生懸命に取り組む姿を見ることができ、間違った箇所にも考えに考えて答えを出そうとしていた。私は教科を教えることが苦手なので、少し不安に思いながら参加しましたが、教える難しさを改めて感じました。

【中学校】

○学習支援

・附属中での実習のほかに中学校生徒の様子を見る機会がなかったので、公立の中学生の無邪気な姿を観察できてよかったと思う。自分が将来教師になった時に、どんな生徒を相手にするのだろうかという不安が少し解消されてよかった。

２．県内教育支援ボランティア活動

〇学びの広場サポーター

・「先生のおかげで全くわからなかった分数の計算できるようになったよ」と最終日に言われ、やりがいと達成感を感じることができた。児童たちの理解度はそれぞれ違っていたが、児童とのやりとりの中から、何が苦手なのかということを明確にし、一つ一つ克服していくことでやりがいを感じることができた。

〇理科支援員

・教育実習とはまた違った責任感を感じることができました。児童に理科を教えるだけなく、児童から学ぶという場面もあり、とてもよい刺激となりました。現場に入り、自分自身を向上させることができるよい機会だったので、時間を作り、またボランティア活動をしたいと思います。

・実験や観察の時間になると、目を輝かせながら活動する児童の姿が多くあり、体験学習によって興味や疑問・探求心が引き出されることを知りました。さらに、実験で上手くいかない場合には、問題を把握し別の方法を試すなどの行動が見られ、問題解決能力も培うことができると思いました。また、一緒に給食を食べ、昼休みには外でドッジボールをするなど、授業外においても交流することができ、児童の実態に触れるよい機会となりました。このような貴重な体験ができたことに感謝しています。この活動を通して得た内容を教職やそれ以外の場においてもいかしていきたいと思います。

〇友陽祭

・特別支援学校がどのような学校なのかを知りたくて参加しました。午前中は外にいたため、どのようなことをしていたかはわかりませんでしたが、午後は小学部の模擬店のお手伝いをして、どのように児童が文化祭に参加するのかがわかりました。情緒障害の子が多かったので、集中力が続く時間が短く、20 ～ 25分程度の交代制で行うという工夫をしていました。授業だけではなく、文化祭などの学校行事にも参加し、自立や社会参加に向けて工夫しながら企画を立てているのだなと感じました。

・現場の先生方と共に作業することができたので、とてもためになりました。先生方は、子どもたちにやらせたいことをやらせるために、多くの準備をしていらっしゃいました。子どもの活動一つ一つに意味をもたせ、活動をつくっていく姿を間近で見ることができたのは、とてもよい経験になりました。また機会があれば、ボランティアにどんどん参加していきたいと思いました。

〇発明クラブアシスタント

・各活動における児童のユニークなアイディアや独創的な工夫に毎回驚いています。それらを作品として実際に表現できるよう、児童たちに支援できればいいなと思いながら取り組んでいきたいです。

○東日本ゴールボール大会

・ゴールボールって何だろうというところから始まりましたが、準備や片付け、主に大会の補助を通じてとても熱中してゲームを見ている自分がいました。実際に女子選手の方とスタッフとして活動をしてみて、本当にゴールボールの楽しさというものがわかりました。目が不自由だからといってできることを人に頼むのはよくないという気持ちが伝わってきました。私は普段、自分ができることを人に任せてしまうことがあります。なので、自分を見つめ直すといった面でもとても勉強になりました。また、来年などに機会があったらぜひ参加したいと思いました。

・今回のようなボランティアは初めてやらせていただきましたが、とてもよい経験をしたと思います。一生懸命に試合に打ち込んでいる選手の方々を見て、自分の与えられた使命を精一杯果たそうという気持ちになりました。また、スタッフの方々も本当にいい人たちばかりで、みんなでこの大会を成功させようという気持ちが込められていることをひしひしと感じました。２日間という短い期間でしたが、ボランティアとして参加させていただいたことをありがたく思いました。

・視力が不自由な方とのコミュニケーションを学びたくて活動に参加しました。ゴールボールの試合は非常に熱いものでした。ハンデを背負っているのに、それを感じさせない選手の方々の姿はとても格好良かったです。今後も機会があればぜひ参加したいです。

○親子療育キャンプボランティア

・３日間、ずっと同じ子どもについていました。７歳の男の子で、よく話し、多動でした。子どもから自分のこと・家族のこと・知っていることを話してきて、始めから距離は近かったです。話をしている時は、すごく楽しそうでうれしかったです。3日間を通して、苦労することも多かったのですが、子どもがすごくかわいかったです。どの親御さんも自分の子どものことを大切に想い、育てていらして、普段の生活の中で大変なことがたくさんあるけれど、そこでも自分の子どもが大好きで大切な存在であることを行動と身体で伝えているのがすごく伝わってきました。３日間、同じ子に付いていたので、その子をたくさん知ることができて、たくさん勉強になりました。保護者の方と接する機会もたくさんあって勉強になったので良かったです。

○夜間生活指導補助職員

・様々な性格の生徒と接することで、生徒指導の良い経験となった。一般の中学生とは多少異なっている面も見られ、個に応じた対応が大切だと学んだ。また、学園での生活を通して生徒が成長していく様子が見られて嬉しかった。

○養護施設学習支援

・現場に入れてもらえることは、非常に貴重な体験だと思っています。自分がボランティアとして役に立てる喜びを感じています。

3-6　理科支援員配置事業

水戸市教育委員会

1　事業の趣旨

文部科学省では，「次代を担う人材の理数科教育」を充実させるため，平成１９年度より独立行政法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）を通じ，各都道府県教育委員会と委託契約を結び，さらに，茨城県教育委員会と市町村教育委員会が委託契約をして「理科支援員等配置事業」を実施しています。具体的には，小学校５，６年生の理科における観察・実験等の体験的な学習を充実するため，授業で観察・実験等の補助及び理科授業の進め方の助言等を行う「理科支援員」や，社会とのつながりを感じさせる発展的な内容の授業を行う「特別講師」を配置することを目的としています。

2　理科支援員の身分等

- 理科支援員は水戸市の臨時職員となります。
- 勤務時間は授業の準備，授業支援，後片付け，理科環境の整備等を含みます。
- 報酬は１時間当たり１，０００円です。
- 通勤手当は水戸市の旅費規定により支給されます。
- 教科書が貸与されます。
- 出勤簿に押印します。
- 理科支援員業務記録簿に記入し，責任者に提出します。

3　配置実績

表　平成１９年年度から２４年度の茨城大学生の派遣状況

	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４
派遣学校数	１０	１０	１３	１２	１２	７
派遣学級数	４７	４１	５１	５４	４６	２３
派遣人数	２５	２５	２５	１８	１４	１１

4　感想等

（１）派遣先学校の感想

- 小学校は，業間休みが５分間しかないので，観察・実験等の準備や後片付けをする時間が大変であったが，支援員が事前に薬品の調整や実験器具をグループごとに分けてくれたり，授業後の水溶液等の処理をしたりしてくれたので，子どもたちと向き合う時間が増え，授業の指導内容に力点を置くことができた。
- 観察・実験の活動では，きめ細かに児童の様子を観察し，器具操作について適切な助言を行ってくれた。

理科支援員（左）の活動の様子

（２）派遣学生の感想

- 理科の授業を毎時間，参観しながら授業に加わることができたので，「課題提示，予想，観察・実験，結果，考察，まとめ」という授業の展開について勉強することができた。
- 児童が一生懸命に授業に取り組む姿を見て，自分も早く教職に就きたいという思いが強くなった。

※　「理科支援員等配置事業」は，今年度で終了しましたが，平成２５年度は，「観察実験アシスタント」として，小中学校における理科の観察・実験を支援する事業が予定されています。

平成24年度　理科支援員活動状況

A. 新規配置校

No.	学校名	支援希望人数	活動人数	所属・学年
1	柳河小学校	1	1	理学部大学院１年
2	国田小学校	1	1	理学部４年
3	妻里小学校	2	1	理学部大学院１年
	合計	4	3	

B. 既配置校

No.	学校名	支援希望人数	活動人数	所属・学年
1	三の丸小学校	3	3	理学部４年、理学部２年、教育学部３年
2	新荘小学校	2	2	教育学部４年、教育学部２年
3	赤塚小学校	2	2	理学部3年、教育学部４年
4	稲荷第二小学校	1	1	教育学部４年
	合計	8	8	

3-7　附属学校園と教育学部の連携研究

連携研究を推進する体制

附属学校園と教育学部の連携が求められています。茨城大学教育学部は2003年度より附属学校委員会を設置し、附属学校園と教育学部の情報交換と連携に努めてきました。2010年11月には、教育学部研究連携推進委員会を立ち上げ、連携研究の体制を整備するとともに、よりよい連携のあり方を模索しながら実践を重ねているところです。（規則についてはP. 84参照のこと）

ここでは、連携研究を推進するための研究補助制度「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の運用、連携研究の実施、附属学校フォーラムの開催について報告します。

１．「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」制度と採択リスト

今年度も、附属学校と教育学部の教員の連携促進するために「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の公募を行いました。補助金額の予算は1年間で総額20万円（5万円×４件）という僅かな額でしたが、2012年度は１０件の応募がありました。教育研究推進委員会で審査した結果、６件が採択されました。実践センター予算を超えた分は、尾﨑久記教育学部長に学部長裁量経費により補填していただいています。

（過去3年間分を次頁に掲載）

２．連携研究の把握

2010年度以来、教育学部教育研究連携推進委員会規則に基づき、附属学校と学部との連携研究は活発に行われています。実践センターでは、双方の意向がを考慮し、よりよい形で実施できるようにと連絡調整に努めています。内容的には、（１）大学・学部の教育研究への協力（２）大学・学部と附属学校の共同研究があります。

（１）大学・学部の教育研究への協力

大学教員の研究に対する附属学校の協力とは、大学・学部教員が研究の一環として行う調査や研究授業などに、附属学校が協力した場合などです。研究と実践を結びつけるためには欠かせない連携研究の場となっています。

（２）大学・学部と附属学校の共同研究

附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、研究発表会を実施しています。そこでは、大学・学部と附属学校との共同研究の一端が公開されます。研究の方向性や教材研究、授業づくりなどについて共同に研究していけることは、それぞれの持つ力を出し合い、高め合う貴重な場となっています。

（過去3年間分をP. 41 ～ 51に掲載）

３．附属学校フォーラムの開催

第1回附属学校フォーラムを2012年2月10日に、第２回附属学校フォーラムを2013年3月2日に開催しました。教育学部附属学校委員会と教育学部教育研究連携推進委員会、教育実践総合センターの三者の協力により、計画・運営されているものです。

（詳細はP. 62 ～ 63に掲載）

3-7-1　実践センター・学部附属学校連携研究費補助金採択リスト

平成22年度　実践センター・学部附属学校連携研究費補助金　採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
渡辺　將司	附属幼稚園 附属小学校 附属中学校	保健体育　渡邊將司 人間環境教育　上地勝 附属幼稚園　平野有佳子 附属小学校　野村知弘　小林克行 附属中学校　菊池耕	子どもの発育・体力・健康の縦断的調査　―まずは横断的調査で全体的傾向をつかむ―
佐藤　宗夫	附属中学校	数学教育　根本博　小口祐一 附属中学校　佐藤宗夫　影山敬久　菊池康浩	新しい中学校学習指導要領数学科に新規導入された指導内容の教材開発
岡本　功	附属特別支援	附属特別支援　松坂晃　全職員 障害児教育　東條吉邦　荒川智　新井英靖	特別支援教育におけるキャリア教育の在り方
牧野　泰彦	附属小学校	理科教育　牧野泰彦 附属小　佐藤義明　佐藤光央	小学校における地層に関わる室内実験の教材開発
三村　和子	附属特別支援	附属特別支援　三村和子 実践センター　正保春彦	教育学部附属心理教育相談室特別支援学校分室相談員の研修支援の在り方に関する研究
佐藤　裕紀子	附属中学校	家政教育　佐藤裕紀子 附属中学校　川又祥子	道徳教育との連携をはかった家庭科の実践的な家族学習に関する研究
齋木　久美	附属幼稚園	情報教育　齋木久美 附属幼稚園　寺門南　笹嶋千香子　太田加代 倉橋優子　中庭朋子　平野有佳子	幼小連携をふまえた幼児期の書字に関する研究

平成23年度　実践センター・学部附属学校連携研究費補助金　採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
田中　健次	附属小学校	音楽教育　田中健次 附属小　桔梗谷美代子・木野内喜久恵 濱田稔子	地域の伝承音楽学習に関する実践事例の収集と公立学校への提供
齋藤　芳徳	附属中学校	情報教育　岩佐　淳一・佐々木忠之 附属中　小泉晋弥・益子道夫・矢崎寛子	学部附属中学校キャリア教育支援　-インターネットによるＯＢ・ＯＧの職業紹介-
猪井　新一	附属中学校	英語教育　猪井新一・齋藤英敏 附属中　小沢　浩・澤畑珠美・斎藤崇	英語コミュニケーション能力を高めるための指導方法の研究
山本　勝博	附属中学校	理科教育　理科教育　山本勝博 附属中　附属中　船山知曉・久保鉄平	カイコの飼育を通した昆虫の完全変態の観察と生命の不思議さを実感できる教材開発
寺本　輝正	附属中学校 附属小学校	附属小　住谷浩 附属中　髙橋文子 美術教育　島　剛　寺本輝正	図画工作教育及び美術教育における素材を生かす教材の開発と実践
村野井　均	4附属学校	附属幼　寺門南・太田加代 附属小　野村知弘・大津崇・高木輝夫 附属中　佐藤宗夫 附属特別支援　田澤裕之・齋藤あすか櫻井幸子・内田清香	附属学校と連携した教職科目用教科書　『教師を目指す人のための発達心理学』の作成

平成24年度　実践センター・学部附属学校連携研究費補助金　採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
根本　博	附属小学校 附属中学校	数学教育　根本　博　小口　祐一 附属小　飯村高志　藤井とし子　臼井英成 附属中　佐藤宗夫　菊地康浩　宇陀定司	「算数・数学科授業の創造」～算数・数学を‘つくる学習’の実現を目指して～
渡邊　將司	附属幼稚園	保健体育教育　渡邊　將司 附属幼稚園　村山朝子・寺門南・笹嶋千香子・太田加代 西野美奈子・青木智美・秋庭美由希・内田信子	幼児の体力・運動能力の向上を目的とした運動遊びの評価と提案
藤井　とし子	附属小学校 附属中学校	学校教育　村野井均・小川哲哉・生越達・杉本憲子 実践センター 附属小学校　岡部千草 附属中学校　藤井とし子・小島貴志・栗原裕弥・比佐中 佐藤顕太郎・菊池康浩・船山千曉	電子黒板・デジタル教科書の活用に関する小・中学校連携研究
佐藤　裕紀子	附属小学校 附属中学校	家政教育　佐藤裕紀子 附属小　白井律子・中山香理 附属中　川又祥子	基礎・基本の定着を目指す小・中学校5年間の学習を見とおした家庭科のカリキュラムに関する研究
長瀬　敦 和田　美穂	附属特別 支援学校	障害児教育　新井英靖 附属特別支援　長瀬　敦・和田美穂 他ＰＣ教育工学担当教員	携帯情報端末を用いたコミュニケーション支援の在り方、電子黒板の効果的な利用の在り方
椎名　幸由紀	附属特別 支援学校	国語教育　昌子佳広 附属特別支援　増子和男、鈴木栄子、椎名幸由紀 竹内彩子、全職員	特別支援学校における「読み聞かせ」に関する研究
齋木　久美	附属幼稚園	情報教育　齋木久美　齋藤芳徳 保健体育　渡邊　將司 障害児教育　勝二博亮 附属幼稚園	幼児の姿勢保持の実態とその改善方法について
髙橋　文子	附属小学校 附属中学校	美術教育　島　剛　寺本　輝正 附属小学校　住谷　浩 附属中学校　髙橋　文子	図画工作教育および美術教育における素材を生かす教材の開発と実践

3-7-2　学部・附属学校の連携の届け出一覧

平成22年度　学部・附属学校の連携の届け一覧

	代表者	実施項目	実施場所	目的・内容など	期日	参加者
1	齋藤　ふくみ 教育保健	卒業研究 実態調査	幼・小・中	食物アレルギーの子供達への対応について 質問紙調査	H22.9.15 ～30	養教4年1名　対象　食物アレルギーを持つ児童生徒・保護者
2	齋木　久美 情報文化・国語教育	研究 実態調査	幼	姿勢に関する実態調査と改善 方法検討のための資料作成	H22.12.7 ～H23.3.10	渡邊將司（保体講座） 附属幼稚園全教員
	矢島　裕介 附属幼稚園	実態調査	幼	幼児が話を聞く・書く時の姿勢の実態 調査・保護者アンケートなど	H22.7.1～ H23.3.31	齋木久美（情報文化・国語教育）寺門・ 笹嶋・太田・倉橋・平野・内田（幼稚園）
3	矢島　裕介 附属幼稚園	研究 授業実践	幼	柔道体験により礼儀作法や日本の 伝統文化に触れる機会をもつ	H22.5.24 ～6.28	尾形　敬史（保体講座） 太田・中庭・秋庭・平野（幼稚園）
4	矢島　裕介 附属幼稚園	実態調査	幼	幼児の身体能力の実態を明らか にする。横断的縦断的に調査研究	H22.7.1～ H23.3.31	渡邊將司（保体講座） 平野　有佳子（幼稚園）
5	矢島　裕介 附属幼稚園	講演会 講師	幼	幼稚園保護者に対して、幼児の社 会性の発達について理解を促す	H22.6.28	講師　新井英靖（特別支援） 対象　幼稚園保護者
6	矢島　裕介 附属幼稚園	授業実践	幼	年長組の親子が、草木を使って 染め物体験をする。	H22.5.11	講師　山本勝博（理科） 年長児親子・教諭
7	矢島　裕介 附属幼稚園	事例研究 講師	幼	事例検討会を通し、幼児の実態把握 や支援の検討・特別支援勉強会	H22.5.19・21 ・8.31・9.22	新井英靖（特別支援） 全教諭
8	矢島　裕介 附属幼稚園	研究	幼	「子どもの語彙学習メカニズムに関 する調査報告」 研究紀要26に寄稿	H22.9.7～ H22.9.29	郷路拓也（人・人コミ）人・院2名 年長児・年中児
9	吉野　聡 保健体育	卒業研究 授業実践	小・中	課題把握に関する情報提示方法について 説明パターン別の理解度の評価について	H22.12.6 ～9	保健体育4年5名 附属小3年・附属中3年
10	佐藤　裕紀子 家政教育	卒業研究 実態調査	小	「家庭生活についてのアンケート」	H22.12	家庭4年1名 対象　小学6年生児童対象
11	牧野　泰彦 理科教育	授業実践	小	四年間「大地のつくり」の授業を担当 室内実験の装置、方法、結果の検討	H22.～ H23	佐藤義明・佐藤光央（附属小）
12	安　淳子 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.17 H23.1.28	橋浦洋志（国）昌子佳広（国） 附属小国語部（安，高木，栗原）
13	中島　隆行 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.26 H23.1.28	木村勝彦（社）村山朝子（社） 附属小社会部（中島，久地岡，新妻）
14	藤井　とし子 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.27 H23.1.28	根本　博（算）小口祐一（算） 附属小算数部（藤井，大津，飯村）
15	佐藤　光央 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.28 H23.1.28	山本勝博（理）大辻　永（理） 附属小理科部（佐藤光，義，石川，横堀）
	山本　勝博 理科教育	授業実践	小	1／28公開授業について、授業 の共同開発	H22.12.28	大辻(理科教育)　佐藤(義) 佐藤（光）・石川・横堀（附属小）
16	桔梗谷美代子 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.27 H23.1.28	藤田文子（音楽） 附属小学校音楽部（桔梗谷，石川）
17	住谷　浩 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.17 H23.1.28	向野康江（美術） 附属小図工部（住谷，安田）
18	白井　律子 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.9 H23.1.28	乾　康代（家庭） 附属小家庭部（白井，中山）
19	野村　知弘 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.14 H23.1.28	日下裕弘（体育） 附属小体育部（野村，小林，横山）

20	野村　知弘 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.20 H23.1.28	生越　達（学校教育） こころ部（桔梗谷，大津，白井，安田）
21	石川　豊 附属小学校	研究	小	研究会の学習案検討 研究会講師	H22.12.16 H23.1.28	猪井新一（英語） Eタイム部（石川，安，飯村，佐々木，新妻）
22	佐藤　義明 附属小学校	研究	小	こころの授業校内研 研究協議会	H23.2.7	小川哲哉（学校教育） 附属小全教諭，副校長
23	菊地　耕 附属中学校	卒業研究 授業実践	中	大学生体育館内での器械運動（鉄棒運動） の授業実践	H22.12.8	附属中学校1第1学年80名
24	菊地　耕 附属中学校	修論研究 授業実践	中	体育授業の授業分析のための授業 観察（学主課題と生徒の行動の分析）	H23.2.10 ～3.10	附属中学校全校生徒466名
25	長谷川秀子 附属中学校	修論研究 調査協力	中	「養護活動における子どもとの相互行為を通した 養護教諭の人間形成機能」質問紙・聞き取り調査	H22.11.9 ・12.7	瀧澤利行（教育保健）・院2年 1名・金子和子（附属中養教補助）
26	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	研究協議会　附属中第1回公開授業 研究会に向けての協議	H22.5.10	生越　達（学校教育） 杉本　憲子（学校教育）
27	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	附属中第1回公開授業研究会　道徳・ 特活分科会における共同研究者	H22.5.28	生越　達（学校教育） 杉本　憲子（学校教育）
28	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	附属中第2回公開授業研究会　社会・ 数学・保健体育分科会の共同研究者	H22.10.19	木村勝彦・村山朝子（社会）根本博 ・小口祐一（数学）・吉野聡（保体）
29	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	附属中第2回公開授業研究会　国語・ 理科・技術・家庭分科会の共同研究者	H22.10.27	大内善一（国語）・山本勝博（理科） 竹野英敏（技術）・佐藤裕紀子（家政）
30	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	附属中第2回公開授業研究会　音楽・ 美術・英語分会科の共同研究者	H22.12.8	藤田文子（音楽）・小泉晋弥 （美術）・齋藤英敏（英語）
31	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	夏期校内職員研修　ESD「持続可能 な開発のための教育」についての研修	H22.8.6	郡司晴元（人間環境）・大辻永（理科） 木村美智子（家政）・附属中教員24名
32	萩谷　正教 附属中学校	実践授業	中	校内授業研究会①　第3学年社会 （公民分野）における校内授業研究	H23.1.25 ・1.27	荒川智（障害児）・村野井均（学 校教育）・田中健次（音楽）・ 村山朝子（社会）・竹野英敏（技 術）・渡部玲二郎（人間環境）・ 大辻永（理科）・郡司晴元（人間 環境）・附属中教員（24名）
33	萩谷　正教 附属中学校	実践授業	中	校内授業研究会② 第1学年国語における校内授業研究	H23.2.4	
34	萩谷　正教 附属中学校	実践授業	中	校内授業研究会③第2学年美術、 学級活動における校内授業研究	H23.2.24	
35	根本　博 数学教育	研究	中	授業づくり研究会を立ち上げ、新学習指導要領 に基づき、資料を作成・提案していく。	H20.12～ H24.3.31	小口（数学）影山・菊池・佐藤（宗） （附属中）・公立中学校教員
	佐藤宗夫 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会　新学習指導要領の 趣旨を活かした教材開発（計6回）	H22.5.16 ～H23.1.23	根本博・小口祐一（数学）・佐藤・影山・菊池 （附属中）・内地生1名・他公立中教員4名
36	大内　善一 国語教育	研究	中	年間を通して公開授業に向けた授業 づくりの研究を行う（授業づくり研究会）	H22.4.1 ～H23.1.31	附属学校教員3名 公立学校教員2名
	開田　晃央 附属中学校	研究	中	新学習指導要領の研究　新学習指導要領 の読み合わせ、教材開発・授業検討	H22.6.26・ 8.21・9.18	大内善一（国語）・佐藤・矢崎（附属中） 他公立中教員2名
37	萩谷　正教 附属中学校	研究	大学	新学習指導要領の研究 公開授業研究会に向けての協議	H22.10.15	竹野英敏（技術）
38	川又祥子 附属中学校	研究	大学	新学習指導要領の研究 教育実践の教材開発	H22.5.14	山本紀久子（家政学）
39	川又祥子 附属中学校	研究	大学	新学習指導要領の研究　教材開発 幼児の成長をとらえるための方策	H22.10.19	佐藤　裕紀子（家政学）
40	斎藤崇 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会　新学習指導要領を 見据えた授業の在り方について	H22.8.25	猪井新一（英語）・斎藤崇・小沢浩（附属 中）・石川豊（附属小）公立中教員3名

41	髙橋文子 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会　新学習指導要領の研究 移行措置期間の教材開発(計5回)	H22.6.19・7.19 ・9.2512.4・1.22	小泉晋弥・金子一夫(美術) 院1名・公立校教員8名
42	田中　正彦 附属中学校	研究	中	新学習指導要領の研究　新学習指導 要領の読み合わせ・教材開発・授業検討	H22.6.6・7.10・8.20 10.2・11.28・1.22	村山朝子・木村勝彦(社会) 他公立中学校教員8名
43	安齋寛 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会　授業実践の発表や、 教材研究の発表と協議(計6回)	H22.7.25～ H23.2.27	山本勝博(理科)・安齋・船山・久 保(附属中)他公立中教員5名
44	ジョイス・カニンガム 人文学部	実態調査 授業参観	中	授業の見学	H22.6.16	人文学部学生6名
45	渡邊　將司 保健体育	研究	中	中学生1日あたりのエネルギー消費量を 測定する。体力テストも行う。	H22.12.11 H23.1.31	千葉工業大学・引原有輝　国立健康 ・栄養研究所　田中茂穂
	菊地　耕 附属中学校	研究 実態調査	大学	中学生の運動量と体力の実態調査研究 中学生の身体活動量と体力検査	H22.12.1 ～H23.3.10	附属中第1・2学年　抽出生徒 40名
46	齋木　久美 情報文化・国語教育	研究 授業実践	中	履歴書を用いた配置配列の学習 指導に関する研究	H23.1.11～ 2.24	矢崎寛子(附属中)・第3学年 授業実施日2.15(予定)
	矢崎　寛子 附属中学校	実践授業	中	日常の書字活動に活かす効果的な書写の授業 履歴書作成を通して配列や字形に留意して書く	H23.2.15	齋木久美(国語)・ 附属中第3学園158名
47	猪井　新一 英語教育	授業参観 授業実践	中	国費留学生による英語授業の参観 日本の英語教育について	H23.1下旬 ～3月中旬	国費留学生2名
48	猪井　新一 英語教育	授業実践	中	「言語と文化総合研究」 院生に2名によるTT授業	H23.2.1	院・英語教育専修1年　2名 (内1名留学生) 第1学年
49	菊地　耕 附属中学校	研究 実践授業	中	陸上競技(長距離走)の新しい教材研究　チ ームパシュートによる長距離走の授業実践	H22.6.1～ 7.21	附属中第1学年　158名
50	長谷川秀子 附属中学校	研究 調査協力	中	「保健室での生徒の動きの分析」のため の来室者観察記録	H22.10.14	斎藤ふくみ(教育保健)・養教 4年1名
51	久保　鉄平 附属中学校	実践授業	中	総合学習(Webbing学習)　ビオトープの 改修に関する助言・指導	H22.12.14 ～H23.1.23	山本勝博(理科) 附属中学校生徒12名
52	髙橋文子 附属中学校	研究	中	焼成粘土による立体作品教材開発 焼成準備・釜詰め・焼成・窯出し	H22.11.26・ 12.3・10	島剛(美術) 学生3名
53	船山　知暁 附属中学校	実践授業	中	「附中科学の祭典」の運営協力　ブース 準備の補助・科学の祭典当日の支援	H23.2.1～ 2.17	山本勝博(理科) 学生8名
54	岡部正徳 附属中学校	実技指導	中	合唱の実技指導	H22.7.28	谷川佳幸(音楽) 附属中生徒30名
55	小林伸彦 附属中学校	実践授業	大学	総合的な学習「手をつなごうプロジェクト」 における講義	H22.1.19	新井英靖(障害児教育)附属中教員 6名・第1学年生徒158名
56	小林伸彦 附属中学校	見学	大学	茨大見学(1日ホームルーム)	H22.5.7	山根爽一・勝本真・齋木久美・大辻永 附属中教員7名・1学年生徒158名
57	佐藤宗夫 附属中学校	実践授業	中	「お弁当の日」に向けて基本的な知識を身につける まごころ弁当の作り方についての講義	H23.1.21	講師　佐藤裕紀子(家政) 附属中教員7名　第2学年160名
58	佐藤宗夫 附属中学校		中	第2学年宿泊共同学習(奥日光方面) の引率ボランティア	H22.7.2～ 7.5	学生3名・附属中第2学年160名 附属中教員8名
59	長谷川秀子 附属中学校		大学	教育保健教室と附属学校園養護教諭 との交流会　交流状況と報告・計画	H22.7.27	教育保健教員4名 ・柴山(小)・内田(幼)・長谷川(中)・内田(特支)
60	三村 和子 附属特別支援学校	実技指導	特	教育学部附属心理教育相談室特別 支援学校分室相談員の研修支援	H22.12.17, 1.14,2.15	正保春彦・守屋瑛子・金丸隆太 (実践総合センター)　全教諭
61	松坂　晃 附属特別支援学校	研究	特	特別支援学校における教科指導(体育・保健体育 ・算数・数学)と授業改善の公開授業研究会	H22.7.22	松村多美恵・尾崎久記・勝二博亮(障) 吉野聡(保体)幼小中特教員参加者253名

62	松坂　晃 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育におけるキャリア教育の在り方の 公開セミナー	H22.12.10	東條吉邦・荒川智・新井英靖（障） 幼小中特福祉関係教員：参加者86名
63	松坂　晃 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育におけるキャリア教育の在り方の 実践研究	H22.6.1～ H23.3.31	東條吉邦・荒川智・新井英靖（障） 全教諭
64	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	検査法研修講座を年2回行う	H22.8.3 H22.8.26	松村多美恵（障害児教育） 幼小中教員各回定員24名
65	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	教材・教具開発講座を年１回行う	H22.8.11	新井英靖（障害児教育） 幼小中教員定員50名
66	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	自立活動講座を年2回行う	H22.8.24 H22.8.25	新井英靖（障害児教育） 幼小中教員各回定員30名
67	斉藤　ふくみ 教育保健	授業実践	特	養護実践研究Ⅱにおける講義及び 授業参観	H23.1.21	斉藤ふくみ（教育保健講座） 養護教諭3年１１名　養教・小中高
68	東條 吉邦 障害児教育	卒業研究 実態調査	特	障害児を持つ母親の将来への期待と障害児を持つ 父親の理想像についてのアンケート	H22.9	特別支援教育コース4年2名 全児童生徒
69	勝二　博亮 障害児教育	修了研究 実態調査	特	知的障害児における基本運動特性と その獲得過程の運動検査及び観察	H22.12～ H23.1	特別専攻科１名 小学部
70	松坂　晃 教育学部	卒業研究 実態調査	特	知的障害児の身体発育特性及び 保満傾向に関する調査研究	H22.10～ H22.12	養護教諭１名 小学部
71	尾形　敬史 教育学部	卒業研究 実態調査	特	特別支援学校における柔道指導に 関する研究	H22.10～ H22.12	人間環境教育4年１名 中学部
72	勝本　真 教育学部	卒業研究 実態調査	特	特別支援学校児童生徒における投動作 関する調査研究	H22.10～ H22.12	保健体育4年１名 小学部
73	松村多美恵 障害児教育	修士調査 研究	特	ダウン症児の発語の明瞭度と平仮名 読み獲得の調査研究	H22.10～ H22.11	大学院教育学研究科１名 小学部
74	松坂　晃 教育学部	卒業研究 実態調査	特	知的障害及び発達障害のある児童生徒の性に 関する調査研究	H22.9	養護教諭４年１名 高等部教諭１名
75	橋浦　洋志 国語教育	授業実践	中	「ことばの力」実践演習	H23年度 前学期予定	教員養成課程・養護教諭 養成課程2年次全員
76	橋浦　洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習	H23年度 後学期予定	教員養成課程・養護教諭 養成課程2年次全員

平成23年度　学部・附属学校の連携の届け一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	大辻　永 理科教育	研究	小	水質調査に対する教師の意識調査 子どもの水質調査活動についてインタビュー	8/17	附属小　栗原裕弥
2	川嶋秀之 国語教育	授業協力	小	クラブ活動「昔遊び班」にてベーゴマについての指導及び歴史の紹介等	9/27	国語教育5名
3	吉野　聡	研究	小	研究論文作成のためのデータ収集 情報掲示別による運動経過把握に及ぼす影響を検討する	10/13	保健体育4名
					11/24・25　12/1	保健体育9名・健康コース1名
					12/12	保健体育4名
4	斉藤　ふくみ 教育保健	卒業研究	小	保健室への曖昧来室者の分析 参与観察法による動線記録・音声記録	10/13～31	養護教諭4年1名
5	金子　一夫 美術教育	授業見学 (図工科)	小	「美術教育授業研究Ⅰ」美術教員を目指す意識向上と授業研究	11/10	甲斐教行　美術教育1年13名 附小　住谷浩・2年2組
6	吉野　聡 保健体育教育	研究 (修論研究)	中	ハンドボールの授業研究(データ収集) 参与観察日誌、	11/29～ 12/22	教育学研究科2名 保健体育4名/健康コース1名
7	大辻　永 理科教育	研究 (卒論研究)	小	環境・理科教育の教材化にむけて教員へのインタビュー(単元内容・子どもの反応について)	12/1	理科教育1名
8	ジョイス・カミンガム 人文学部	研究 (卒論研究)	小	卒業研究のための授業見学・インタビュー アンケートなど	11/29～ 12/9	人文学部人コミ2名
9	齋藤　英敏 英語教育	研究	中	中学英語授業における相互評価の効果についての研究 形成的評価が学習に影響するかどうか	4/1～H24 6/30	附中　齋藤　崇
	齋藤　崇 附属中学校	研究 授業実践	中	中学生の英語の授業における相互評価の効果についての研究	6/1～2/22	英語教育　齋藤英敏 附中　斎藤崇
10	猪井　新一 英語教育	研究	中	英語コミュニケーション能力向上のための具体的方策の協議、実践	4/1～H24 3/31	齋藤英敏・猪井新一 附中　齋藤崇・小沢浩・澤畑珠美
11	齋藤　芳徳 情報文化	教育支援	中	附属中学校キャリア教育支援 インターネットによるOB・OGの職業紹介	H23/5～	岩佐淳一・佐々木忠之・齋藤芳徳 附中　小泉晋弥・益子道夫・矢崎寛子
12	日下　裕弘 保健体育	その他 実践活動	小	子どもの自然遊び 合宿体験活動	12/24～ 12/25	日下ゼミ(子どもの遊び研究会)学生 附属小児童(4～6年生)24名
13	根本　博 数学教育	研究	中	授業づくり研究会　指導資料の作成、研究授業の実施、研究成果を教育機関に提供する	H20/12/1～ H24/3/31まで	小口祐一　附属中　宇陀定司 佐藤宗夫・菊池康浩
14	渡邊　將司 保健体育	研究	中	エネルギー消費量・身体活動状況・などについての追跡調査　身体活動量の調査・持久力・筋力の調査	H23/12中旬 ～H24/1	引原有輝(千葉工大工学部助教) 附中生(昨年度40名)
15	橋浦　洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習　ことばの在り方について実践を通して考察する	2/16	学校教員養成課程・養護教諭養成課程2年生全員
16	齋木　久美 情報教育	研究 実態調査	幼	幼児の姿勢の実態把握とその改善方法の研究	H23/10～ H24/3/31まで	保健体育　渡邊・特別支援　勝二 情報文化　齋藤、齋木・附幼全教員
17	齋木　久美 情報文化	研究 授業実践	中	中学校書写の学習指導法に関する研究 配置の学習に履歴書を用い、効果を検証	H23/11～ H24/3	情報文化　齋木 附属中　矢崎寛子
18	野崎　英明 技術教育	研究	中	大学院修了研究開発した教材の効果検証 教材使用前・後の授業内容理解度の変化	1/12・16・ 1/18	附属中　萩谷　大学院生1名 技術4～8名　附属中1年生
19	大内　善一 国語教育	研究	中	授業づくり研究会 公開研究会での公開授業の作成	6／28・8／1 9／13・10／25	附属中教員3名

20	開田　晃央 附属中学校	実態調査 研究	小 中	「聞くこと」における児童生徒の意識についての調査研究「聞くこと」アンケートの作成	8/30・9/30 11/25・1/17	附中教員　1名　附小教員1名 公立学校教員6名
	橋浦　洋志 国語教育	調査	小 中	義務教育における学習活動の基礎としての「聞く力」の育成　アンケート調査	H24／2～3	附属小　野村(仁) 附属中　開田
21	田中　正彦 附属中学校	その他	中	宿泊共同学習ボランティア 登山・養護等のボランティア	7/12～ 7/16	教育学部生3名　大学院生2名
22	田中　正彦 附属中学校	授業実践 (参観)	中	学生の講義の一環として社会科のモデル授業の参観	1/18	社会教育1年生　25名 担当　村山　朝子
23	髙橋　文子 附属中学校	指導	大学	バターナイフの制作・実践のための情報交換材料や用具・授業実践について検討する	10/22	美術教育　寺本輝正
24	髙橋　文子 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会　授業実践の問題点を助言・協議により、よりよい授業づくりをめざす	5／8・7／21 10／1・1／21	美術教育　小泉晋弥・金子一夫 公立学校教員5～6名
25	髙橋　文子 附属中学校	授業実践	中	美術教育実践演習　学部1年生が授業実践を参観	7/6	美術教育1年生　13名
26	岡部　正徳 附属中学校	その他 PTA講演会	中	講演会　放射線や放射性物質に関する理解を深める	12/8	田内　広(理学部教授)附中教員10名 附中保護者60名附小保護者40名
27	岡部　正徳 附属中学校	その他 研修会	中	研修会　東日本大震災後の「心のケア」についての職員の意識を高める	4/25	学校臨床　金丸　隆太 附中教員24名　附小教員1名
28	岡部　正徳 附属中学校	その他 研修会	中	研修会　不登校生徒への支援・対策 不登校生徒への支援対策委員会の開催	7／4・12／16 3月にも開催予定	教育実践センター　正保　春彦 附中教員10名
29	長谷川　秀子 附属中学校	実態調査	中	修士論文作成にあたっての調査協力　「アレルギー疾患の児童生徒への養護教諭の対応について」	6/22	教育保健　竹下誠一郎・石原研治 附中長谷川・養教専修1名
30	長谷川　秀子 附属中学校	実態調査	中	卒論作成にあたっての調査協力「東日本大震災時の養護教諭の活動に関する研究」	10/11	教育保健　石原研治 附中　長谷川　養教4年1名
31	長谷川　秀子 附属中学校	その他	中	PTA広報紙への寄稿「震災後の子どもたちの心のケア」	7／20発行	学校臨床　金丸　隆太
32	久保　鉄平 附属中学校	授業実践	中	「総合的な学習の時間」で行う「附中科学の祭典」の実験補助・準備	2／2～16	理科教育　山本勝博　学生 附属中生160名　附中教員8名
33	久保　鉄平 附属中学校	授業実践	中	「総合的な学習の時間」の外部講師 ビオトープグループへの講義	1月12日	理科教育大学院生7名 附中生徒12名　附中教員1名
34	小沼　信行 附属中学校	その他	中	地域交流集会においての科学実験講座 「食塩の結晶・ミョウバンの結晶」	H24.10.4	理科教育　山本勝博 附中生徒30名　附中教員1名
35	船山　知暁 附属中学校	授業実践	中	卒業研究にて開発した教材の効果検証 レゴを使った科学的表現力を高める理科授業	4／11～ 4／22まで	理科教育　山本勝博 附中1学年生徒157名
36	船山　知暁 附属中学校	授業実践	中	理科教材の開発 カイコを用いたメンデルの法則の教材開発	6／20～ 2／20まで	理科教育　山本勝博 附属中3学年生徒39名
37	川又　祥子 附属中学校		大学	大学と附属学校との共同研究のあり方について 新学習指導要領の研修	7/20	家政教育　山本・佐藤・西川・木村 数井・乾　附小　中山　附中　川又
38	菊地　耕 附属中学校	授業実践 卒業研究	中	卒論作成のために器械運動における判断力の調査 器械運動(鉄棒)の動きを見て質問に答える	11/29～ 12／22まで	保健体育　吉野 附中　菊地　附中2学年159名
39	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	授業づくり研究　生分解性プラスチックを利用した教材の作成	7／27・8／19 9／20・10／8	技術教育　野崎　英明
40	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	平成23年度　教育研究協議会 公開授業研究会に向けての事前指導	10/3	教育学部　村山　木村(勝)　小口 野崎　佐藤　猪井　小川　大内 山本　金子　巽　杉本

41	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	平成23年度第1回公開授業研究会共同研究者 社会・数学・技術・家庭・外国語・総合的な学習の時間	10/18	村山　木村(勝)　小口　野崎 佐藤　猪井　小川
42	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	平成23年度第2回公開授業研究会共同研究者 国語・理科・音楽・美術・保体・道徳・特別活動	11/8	大内・山本・田中・金子・巽 生越・杉本
43	萩谷　正教 附属中学校	研究 卒業研究	中	卒業研究にて開発した教材の効果検証「機械分野におけるエアーエンジンを用いた模型制作」	8／22・23	技術教育　安田　ゼミ生5名 附中パソコン部生徒7名
44	萩谷　正教 附属中学校	研究	中	夏期校内職員研修 「教育課程における指導と評価」についての研修	8/10	数学教育　根本 附属中教員24名
45	矢島　裕介 附属幼稚園	授業実践 研究	幼	柔道体験　柔道を通して日本の伝統文化や礼儀作法を学ぶ機会とする	5/23～6/27 (全5回)	保健体育　尾形　敬史 附幼　笹嶋・西野・小林
46	矢島　裕介 附属幼稚園	授業実践 講師	幼	親子レク(草木染め)　自然の草木を煮詰めたもので布を染める体験をする	H24.5.16	理科　山本勝博　附幼教員 附幼　年長組とその保護者
47	矢島　裕介 附属幼稚園	講演会 講師	幼	「子育て講座」講師 「子育ては親育ち～「こころね」を通して～」	H24.1.16	講師　岡部千草(実践センター) 附幼保護者
48	野村　仁 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	国語教育　橋浦洋志　昌子佳弘 附小国語科
49	大島　利則 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	社会教育　木村勝彦　村山朝子 附小社会科
50	根本　博 数学教育	授業実践	小 中	算数・数学科教育に関する指導方法の改善 公開授業研究会の為の指導案の検討	H23／4～ H24／3	根本博　小口祐一　附小算数科 教員3名附中数学科教員3名
	藤井　とし子 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	算数教育　根本博　小口祐一 附小算数科
51	石川　豊 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	理科教育　山本勝博　大辻永 附小理科
52	濱田　稔子 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	音楽教育　藤田文子 附小音楽科
53	住谷　浩 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	美術教育　向野康江 附小図工科
54	中山　香理 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	家政教育　佐藤裕紀子 附小家庭科
55	日下　裕弘 保健体育	研究 授業実践	小	公開授業研究会 ゴール型ボールゲームの研究	2/3	日下裕弘 附小　野村知弘
	野村　知弘 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	保健体育　日下裕弘 附小体育科
56	木野内喜久恵 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	学校教育　生越達 附小こころ
57	比佐　中 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	英語教育　猪井新一 附小Eタイム
58	佐藤　裕紀子 家政教育	研究	小 中	小・中5年間を見通した家庭科・技術家庭科(家庭分野)のカリキュラムの作成	H24/3～ H25/3まで	家政教育　佐藤　裕紀子 附小　白井・中山　附中　川又
59	高良　和麻 理工学研究科	授業見学	小 中	授業見学(算数科指導方法等) 授業見学(数学科、技術家庭科指導方法等)	2/15 3/21・22	大学院理工学研究科
60	松坂　晃 附属特別支援学校	研究	特	公開授業研究会「特別支援学校の教科指導(国語)における授業づくり」	H23.4.1～ H23.7.22	松村多美恵・東條吉邦・勝二博亮(障) 本校教員30名
61	松坂　晃 附属特別支援学校	研究	特	公開研究会「特別支援教育(知的障害)におけるキャリア教育の在り方」	H23.4.1～ H24.3.31	東條吉邦・荒川智・新井英靖(障) 本校教員30名

62	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	検査法研修講座 「心理検査法　田中ビネーⅤ」	H23.8.3 H23.8.26	松村多美恵（障害児教育） 本校教員5名
63	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	教材・教具開発講座「伝え合う力を育てる教材・教具の工夫」	H23.8.11	新井英靖（障害児教育） 本校教員30名
64	松坂　晃 附属特別支援学校	公開講座	特	自立活動講座「ムーブメントについて」	H23.8.29 H23.8.30	新井英靖（障害児教育） 本校教員5名
65	勝二　博亮 障害児教育教室	研究	特	知的障害児における基本運動の発達過程	H23.12.19～ H24.2.15	特別専攻科1名 小学部教員10名
66	勝二　博亮 障害児教育教室	研究	特	文章読解に関わる認知機能の発達科学的研究	H23.11.19～ H24.2.15	大学院教育学研究科1名 高等部教員3名
67	松坂　晃 附属特別支援学校	実態調査	特	交流および共同学習の実施状況とインクルージョンに関する調査研究	H23.11.17～ H24.2.15	養護教諭1名，小学部教員1名，中学部教員1名，養護教諭養成課程4年1名
68	日下裕弘 保健体育教室	実態調査	特	特別支援教育とA.マズローの人間観に関する研究	H23.11.8～ H24.2.15	中学部教員1名，人間環境教育4年1名
69	新井　英靖 障害児教育教室	研究	特	小学部におけるキャリア教育に関する実践的研究	H23.9.12～ H24.2.15	小学部教員10名 特別専攻科1名
70	勝二　博亮 障害児教育教室	研究	特	自閉性障害児のパニック行動に関する調査	H23.6.14～ H24.2.15	小学部教員3名 特別専攻科1名
71	松坂　晃 附属特別支援学校	実態調査	特	養護教諭養成機関における特別支援教育の内容に関する調査研究	H23.8.22～	養護教諭1名，小学部教員1名，中学部教員1名，大学院教育学研究科1名
72	尾形　敬史 保健体育教室	授業実践	特	特別支援学校中学部における柔道指導に関する一考察	H23.7.28～ H24.2.15	中学部教員7名 人間環境教育4年3名

平成24年度　学部・附属学校の連携の届け一覧

	代表者	実施項目	連携先	期日	目的・内容など	参加者
1	斉藤　ふくみ 教育保健	参観	小	H24.4.19～ 5.24	養護実習の事前指導 視力検査･内科検診等の参観及び介助	養教3年3名
2	橋浦　洋志 国語教育	授業実践	小 中	H25.2.13 H24.9.27	「ことばの力」演習 言葉のあり方について実践を通して考案する	教員養成課程・養護教諭養成課程2年次全員　授業担当者
3	岡部　千草 国語教育	授業実践 参観	小	H24.6.4	「授業づくり」にあたっての実践授業参観 授業実践について事前検討と授業づくり	大学院生8名　委託生1名 教員2名　附属小　野村
4	岡部　千草 国語教育	研究	小	H24.6.11	国語科教育実践「詩の授業」事後指導 大学での講話依頼	大学院生10名　委託生1名 附属小　野村
5	金子　一夫 美術教育	卒業研究	小	H24.7下旬	卒業研究　美術作品の教育利用についての聞き取り調査	美術教育4年 附属小　住谷
6	金子一夫 美術教育	研究	小 中	H24.7下旬	「仏像の様式をキャッチフレーズ化する鑑賞教育方法」について、児童・生徒を対象に実践的に実証する	有田洋子(島根大学講師) 附小児童、附中生徒 附小　安田　附中　髙橋
7	向野　康江 美術教育	授業参観	小	H24.6.24	図工の授業見学　学部1年生より図工教育に親しみを感じてもらう	平成24年度入学の美術教育1年生全員
8	山本　勝博 理科教育	授業実践	小 中	H24.9.1～ H24.10.31	粒子概念の育成を図る授業実践 岩塩のへき開、食塩の微結晶の作成、観察	大学院生1名
9	村山　朝子 社会科教育	実態調査 修論	小 中	H24.9～10 H24.7	修士論文作成のための調査 「写真資料の教材的効果」に関するアンケート調査	小2年生～6年生（希望） 中1年生～3年生 各学年1クラス程度・院生
10	勝二　博亮 障害児教育	研究	幼	H24.9.27～ H24.11.7	ひらがな書字でつまずく子どもへの支援方法を考えていく上での基礎資料の収集 ひらがな書字に関わりがあるとされる能力を見る課題	特専1名 年少～年長
11	勝二　博亮 障害児教育	研究	幼	H24.10.24～ H24.11.6	幼児の拗音の習得について 清音読み、清拗音読み、単文字RAN課題など	特別支援教育4年1名
12	勝本　真 人間環境	授業実践 卒論・修論	中	H24.9.6～ H24.10.30	卒論･修論に関する授業研究(教材・バレーボール) 独自の教材を作成･実施後、習得状況を調査	附中生2年生・保健体育4年1名 院・保健体育2年1名
13	斉藤　ふくみ 教育保健	卒業研究	小 中	H24.10.1～ 30うち数日	保健室機能と養護教諭の職務から生まれる子供の安心感に関する研究 養教の言葉かけ、スキンシップに着目して分析	養教4年1名
14	勝二　博亮 障害児教育	研究	小	H24.11.2～ H24.11.16	文章読解力の発達的変化と語彙能力の調査 文章読解に躓く子どもての支援を考える資料とする。文章課題3題、語彙力検査32問	特専1名・学生アシスタント3名 附小2･4学年各1学級
15	渡邊　將司 保健体育教育	研究	中	H24.11上旬 ～	エネルギー消費量･身体活動状況･体格･体力追跡調査 身体活動量の調査・持久力・筋力の測定	弘原有輝 附中生　院生
16	村山　朝子 社会科教育	卒論研究	小	H24.11.6・7	幼小連携活動調査　幼小連携活動の参観と事後指導についての担当者への聞き取り	社会4年1名
17	渡邊　將司 保健体育教育	研究	幼	H24.11下旬 ～H25.3上旬	瞬発力向上を目的とした運動遊びの介入研究 週1回30分運動遊びを行い、瞬発力向上効果を検証	4･5歳児クラス対象 附属幼稚園教員
18	荒川　智 障害児教育	研究 授業実践	小	H24.12中旬	科研：ESDの視点による学習活動の構築 大学教員による理科の実験授業（サケを中心とした教材横断的カリキュラムの一環として）	教育学部教員7～8名 対象：附小5年生、左記の授業の流れに沿った社会科の授業も計画
19	岡本　研二 保健体育教育	実態調査	小	H24.12.12	小学校体育における教師の言葉かけの実態調査 教師の言葉かけについての実状把握	保健体育4年
20	吉野　聡 保健体育教育	研究	小 中	H25.1.9～ 1.18	児童・生徒の運動欲求について明らかにし、発達的特性を検討する。運動欲求調査を実施する。	

21	吉野　聡 保健体育教育	研究	中	H25.1.10～ 1.18	視空間認知及びボール運動の状況判断についての調査を行い、実態及び両者の関係を検討する。 視空間認知及びボール運動の状況判断調査	保健体育4年5名
22	島田　裕之 美術教育	授業見学	小	H25.1.23	図画工作科授業の見学　　授業の指導案を作成するための参考として授業を見学する	美術2年　12名 附属小6年1クラス
23	東條　吉邦 障害児教育	研究	幼	H24.9.26～ 10.12	自己調整機能についての分析・検討 絵カードの課題、生活場面の観察・記録	特別支援教育4年1名 附幼園児3歳児、5歳児各15名
24	村山　朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	H24.5.14	自然物を使った染色を行い、豊かな体験の機会とする 草木を煮詰めたもので布を染める体験をする	講師　山本勝博（理科教育） 附幼5歳児と保護者
25	村山　朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	H24.5.21～ 6.18	柔道体験により、日本の文化に触れ、身体を意識しながら動かしたり、礼儀を学ぶ機会とする	講師　尾形敬史（保健体育） 附幼5歳児　　2004年から実施
26	村山　朝子 附属幼稚園	事例研究 講師	幼	H25.1.22 H25.2.5	支援が必要な幼児のよりよい支援を探る保育参観、事例検討会を通して実態把握や支援の方向性の検討	講師　新井英靖（特別支援） 附幼全教諭
27	増子　和男 附属特別支援学校	研究	特	H23.4.1～ H24.7.23	公開授業研究会 「個々の力が発揮できる授業づくり」	障害児教育　勝二博亮、松村多美恵 荒川智　附特支教員30名
28	増子　和男 附属特別支援学校	研究	特	H23.4.1～ H25.3.31	公開研究会「特別支援教育（知的障害）におけるキャリア教育の在り方」	障害児教育　新井英靖、東條吉邦 荒川智　　附特支教員30名
29	増子　和男 附属特別支援学校	公開講座	特	H24.8.1 H24.8.22	検査法研修講座 「WISC―Ⅲ」概要と演習	障害児教育　松村多美恵 附特支教員8名
30	増子　和男 附属特別支援学校	公開講座	特	H24.8.2 H24.8.3	自立活動講座 「ムーブメント」講習・実技・演習	障害児教育　新井英靖 附特支教員9名
31	増子　和男 附属特別支援学校	公開講座	特 大学	H24.8.27	「絵本の読み合い」公開講座	附属教育実践総合センター 附特支教員25名
32	勝二　博亮 障害児教育	研究	特	H24.12.18～ H25.1.23	知的障害における基本運動の発達過程	特別支援専攻科1名 附特支小学部教員10名
33	勝二　博亮 障害児教育	実態調査	特	H24.11.15～ H25.1.23	「特別支援学校における歯科保健指導」について	特別支援専攻科1名 附特支養護教諭
34	松坂　晃 保健体育教育	授業実践	特	H24.7.4～ H25.1.23	特別支援学校中学部保健体育授業における柔道導入の課題	保健体育　1名、スポーツコース1名　中学部教員7名
35	松坂　晃 保健体育教育	実態調査	特	H24.11.5～ H25.1.23	障害児における学校卒業後のスポーツ実践の現状と課題	保健体育1名 附特支高等部教員1名
36	向野　康江 美術教育	実態調査	特	H24.11.29～ H25.1.23	ディズニーと美術教育に関する研究	大学院生1名 附特支小学部教員10名
37	松村　多美恵 障害児教育	実態調査	特	H24.7.17～ H25.1.23	描画活動における発達過程に関する研究（「塗り絵課題」の調査	特別支援教育1名 附特支教員2名
38	松村　多美恵 障害児教育	実態調査	特	H24.9.4～ H25.1.23	過去経験と空想の出来事の語りの発達過程に関する研究	特別支援教育1名 附特支教員2名
39	木村　勝彦 社会科教育	授業見学	小	H25.2.15	教育学部1年生対象「社会科教育学入門」の一環として	科目履修者27名
40	橋浦　洋志 昌子　佳広 国語教育	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員2名
41	木村　勝彦 社会科教育	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名
42	小口　祐一 算数	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名
43	山本　勝博 大辻　永 理科教育	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名

44	田中　健次 音楽	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名
45	向野　康江 図画工作	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員2名
46	吉野　聡 体育	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名
47	生越　達 こころ	研究協議講師	小	H25.2.1	公開授業研究会の研究協議会講師として	附小教員3名
48	長谷川　秀子 附属中学校	修論研究	中	H24.4.5	修士論文作成における事例検討の協力 （事例検討会）	養護教育専攻院生1名・指導教員 1名・附属学校養護教諭4名
49	長谷川　秀子 附属中学校	その他	中	H24.7.10～13 H24.7.14～16	附属中宿泊共同学習における補助 生徒看護の補助、救護の補助	養教4年　2名
50	増田　浩一 附属中学校	研修	中	H24.8.31	不登校生徒等への今後の対応等について 全職員での研修　講話	院・学校臨床　正保　春彦　岸　良範 附中教員24名・カウンセラー1名
51	小沼　信行 附属中学校	授業実践	中	H25.1.22～2.7　計4回	「附中生のための科学の祭典」の学習支援	理科教育　山本　勝博　理科教育 学生のべ19名　附中教員14名
52	増田　浩一 附属中学校	授業見学 授業実践	中	H25.1.18 H25.2.6	今後の授業実践について事前検討と授業づくり 中学校1の授業見学と授業実践	英語教育　猪井新一 院生（英語）3名　附属中生
53	斎藤　崇 附属中学校	授業参観	中	H25.1.8	今後の授業実践について事前検討と授業づくり 中学校1・2年生の授業見学	英語教育　齋藤英敏 院生2名（英語）附中生
54	杉本　憲子 学校教育	研究	中	H24.8.10	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会に向けての事前指導	附中教員２１名
55	鈴木　一史 国語教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員3名
56	村山朝子，木村勝彦 社会科教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	11.5　附中教員2名 12.1　附中教員3名
57	小口　祐一 数学教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	11.5　附中教員2名 12.1　附中教員3名
58	山本　勝博 理科教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	11.5　附中教員2名 12.1　附中教員3名
59	藤田　文子 音楽教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員1名
60	金子　一夫 美術教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員1名
61	巽　　申直 保健体育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員3名
62	工藤　雄司 技術教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員1名
63	木村美智子 家政教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	附中教員1名
64	齋藤　英敏 英語教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者	11.5　附中教員2名 12.1　附中教員3名
65	生越　　達 学校教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者（道徳）	附中教員1名
66	杉本　憲子 学校教育	研究	中	H24.11.5 H24.12.1	平成２４年度教育研究協議会 公開授業研究会　事前指導・共同研究者（特別活動）	11.5　附中教員2名 12.1　附中教員1名
67	野村　仁 附属小学校	授業実践	小	H25.2.18	わくわくキッズ・デーにおける書写指導の 工夫	国語教育　齋木　久美

4　講習会・研修会の開催

4-1　電子黒板・デジタル教材の活用に関する講習会(初級編・応用編)

教育学部　教授　小川哲哉

「電子黒板とデジタル教材の活用に関する講習会」は、茨城大学教育学部附属教育実践総合センターの模擬授業室において以下の日程で行われました。まず、2012年の7月31日と8月7日に同一内容の「基礎編」を実施し、10月4日と11日には「応用編」を行いました。基礎編では、学部学生39名、大学教員10名、附属学校教員9名の58名、応用編では、学部学生19名、大学教員3名、現職教員15名（委託生10名）の37名の参加者がありました。講習会の具体的内容は以下の通りです。

（1）基礎編

まず電子黒板は、3種類の異なるタイプ、①フロントシステム型（パナソニック社)、②マグネットで既成の黒板に貼り付ける可搬型（PLUS社)、③短焦点のプロジェクター型（エプソン社）を用意しました。これらの3タイプの電子黒板にはそれぞれ特徴があります。①は、前面からプロジェクターで照射するもので、黒板への手によるタッチで操作コントロールができます。②は、黒板に薄いシートを貼り付けるものであるため、黒板との共用が可能です。③は、ホワイトボートが最適だが、既成の黒板でも照射できる。ただそれぞれの黒板には一長一短があります。①に関しては、手による操作コントロールは魅力的だが、固定の電子黒板なため、場所移動が大変です。②については丸められるシートのため移動が楽ですが、③のようにどのような場所でもシートが貼れるわけではありません。③は場所を選ばない点では3タイプの中で最も使いやすいものでした。ただし、表面が歪曲した場所では照射が困難なため、既成の黒板で使えないものがあります。こうした3タイプの電子黒板を実際に使ってその使い勝手を試したことは参加者には好評でした。

①と②のタイプの電子黒板

③のタイプの電子黒板

講習は、主に水戸市教育委員会総合教育研究所ICT指導員の中島優子氏によって進められました。中島氏は、電子黒板が持つ3つの代表的機能、①画面上で直接操作できること、②画面へ直接書き込みができること、③書き込んだ情報を保存できることを説明すると共に、音声や動画で学習者の興味関心を高めることできる点を説明しました。さらに水戸市内の学校での指導例から、家庭科の裁縫の授業で使用した事例や、保健の授業で手洗いの順番を教える教材、さらには水戸市の地域教材「デジマップ」が紹介されました。その後、参加者は3種類の電子黒板の操作体験を行いました。

ただ教員の参加者たちの間では、実際の授業場面を想定した使い方やデジタル教科書の具体的な使用法に関する講習をして欲しいとの希望が多数出ました。

（2）応用編

応用編では、電子黒板やデジタル教科書が、授業実践でどのように生かせるのかを明らかにするため、ミニ模擬授業等も行ってICT教育の可能性を探りました。今回は前半でデジタル教科書の概要を中島氏が行い、後半では茨城大学の小川哲哉と岡部千草が授業実践の事例を紹介しました。

デジタル教科書には、動画、画像、イラスト、音声などの仕掛けが組み込まれており、写真やグラフを電子黒板で操作すると、通常の教科書とは違って、動画やグラフがアニメーション的に現れます。こうしたデジタル教科書ならではの仕掛けを有効に使うことで、授業がより立体的に行えるようになります。中島氏はデジタル教科書の基本的な使い方を、大日本図書の中学2年生の理科、東京書籍の小学校6年生の社会、光村図書の小学校3年生の書写を使って解説しました。

ミニ模擬授業では、小川が国語のデジタル教科書を使って授業を想定した具体的な活用方法を論究しました。小川は、光村図書小学校6年生の国語教材「『鳥獣戯画』を読む」（高畑勲）を取り上げました。内容はデジタル教科書を使った授業と、使わない授業の比較検討です。デジタル教科書のメリットは、視覚的な明確さであり、例えば教科書の本文や『鳥獣戯画』の絵そのものを拡大したり、新出漢字の解説等にはっきりとあらわれています。また、音声機能を活用した朗読を聞かせることが、実は本文の内容を十分に理解していない児童に対して有効であることが指摘されました。ただ、デジタル教科書を使わない授業例の紹介では『鳥獣戯画』の原寸大を作成してみることで児童の興味関心が高まることがある。重要なのは、授業のデジタル化を行いながら、アナログ的指導の有効性をどのように授業に組み込むかであると思われます。

岡部のミニ模擬授業では、東京書籍小学校2年生の国語教材「ビーバーの大工事」（中川志郎）が取り上げられ、動画の活用の仕方について提案がありました。教材の導入部分にはビーバーの後ろ足の水かきの説明文があります。そのため授業の前半では子どもたちにビーバーの特徴的な後ろ足や動作を気づかせる必要があります。この場合、デジタル教科書の動画機能を使って、ビーバーの動作を見せることも考えられますが、本授業では敢えて動画機能の「音声」を消去することで無音の画面から想像できることを発言させ、その後に教科書を読ませました。こうした無音の画面と文字によって子どもたちの想像力を高めた後で、音声入りの動画を見せていきます。岡部によれば、このようにすることで「文字言語」、「音声言語」、「写真・映像」の三つの要素が融合されて、子どもたちに対象物の実態や状況をより深く理解させることができるそうです。

現職教員の方々からは、このような具体的な授業に即した電子黒板やデジタル教科書の使い方については好評でした。

4-2　教育実践総合センター共催講演会「絵本の読みあい」講座

附属特別支援学校長　増子和男

附属特別支援学校では、地域貢献の一環として、毎年公開講座を開催していますが、本年度は教育実践センターと共催で、8月２７日に、大学D棟201教室を会場に、山口県下関市の梅光学院大学文学部日本文学科の村中李衣教授に「ゆるやかに繋がる ～絵本の読みあいを通して～ 」という題名で講演をお願いしました。村中教授は、第28回野間児童文芸賞をはじめ数々の文芸賞の受賞歴を持つ児童文学の実作者としても知られ、また子供から老人に至るまでの広い世代に対する絵本の「読みあい」の提唱者として、全国各地でその普及に当たっています。この講演は、村中教授が本校校長の前任校で同僚であったことから実現しました。

今回は、こちらから一方的に読んで聞かせるという一般的な「読み聞かせ」ではなく、読み手と聞き手相互に物語を共有する、「読みあい」とはどのようなものなのかを、実際の作品を取り上げて、講演していただきました。

講演会の当日は、夏休み終了直前の8月末でしたが、教員、保護者、学生の合計121名が見え、講演に聞き入っていました。

時に身振り手振りを交え、聞く人たちを巻き込みながらの、楽しく弾むような村中教授の話ぶりに、来場者は引き込まれ、2時間の講演時間はあっという間に過ぎました。

事後に行った来場者へのアンケートはどれも好評で、「とても心が温かくなるようなお話だった」、「今回は講演会の時期が(夏休み明け直前で)日程的に合わず、来られない人もいたので、後日また村中先生の講演をお願いしたい」との声を数多くいただきました。本校としても、ぜひとも後日を期したいと念じております。

最後になりましたが、講演の共催を快諾していただき、種々お骨折りいただいた教育実践センター長・田中健次教授に厚く御礼申し上げますとともに、事前事後の諸業務にご協力いただいたセンター員の皆様、また夏休みの中ご出席いただいた尾﨑久記教育学部長、巽申直副学部長をはじめとする大学関係の皆様、附属各校園の先生方、そして講演を盛り立てていただいた来場者の皆様に御礼申し上げます。

村中季衣教授

講演風景

講演全景

4-3　文部科学省優秀教員による授業研究会 (第 1 回)

文部科学省優秀教員による授業研究会（第1回）が、10月24日に茨城大学教育学部に本年度新設された模擬授業室において行なわれた。教育実践センターと英語教育講座共催の同研究会は、参観者をともなう模擬授業とその後の質疑応答の2部構成で、前半の模擬授業は、文部科学大臣から優秀教員として表彰をうけた大洗町立南中学校教諭平野紀英子氏と同校ALTフレデリック・モートン氏が、授業に参加した茨城大学の学生約30名を中学生2年生に見立てて行なった。授業は実際の授業の2回分を圧縮したものであったが、そこで披露された生徒の自発性を引き出す工夫の数々は、参加者にとって刺激的で大いに参考になるものであったようで、「自分が中学校のころにこんな授業を受けられていたらと思う素晴らしい内容だった」という声が授業後に聞かれた。後半の質疑応答も、予定時間を超過するほどに積極的なやりとりがあり、たいへん盛況であった。

なお、研究会を開催した教育学部模擬授業室は、小・中学校の実際の教室を再現した教育実践の本格的シミュレーション・ルーム（40名収容）で、教材教具作成室も隣接している。本年度から運用が開始され、今後のさらなる活用が期待されている。

平野紀英子教諭

授業風景

2012.10.24　英語科授業（於：茨城大学）

第２学年　ＩＵ　組　外国語（英語）科　学習指導案

指導者　平野　紀英子
ＡＬＴ　John Frederick Morton

単元における テーマ	基本的な知識・技能を習得しながら英語を通して互いにかかわる喜びを味わうことで， ４技能を総合的に育成する指導の工夫

1　単元名　　My Project 4　対話をつなげよう Let's Keep Talking in English!（Sunshine English Course 2）

2　単元について

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことは，英語科の指導の一つの大きな目標である。実際に，多くの生徒は，英語学習で目指したいことの中に，「英語ですらすら話せるようになりたい」「海外のいろいろな人たちと話せるようになりたい」という希望を書いている。本単元は，「繰り返しや確認」「相手の言ったことに関する質問」「自分の意見・感想」というスキル（対話を続けるコツともいうべきもので，授業の中で生徒には「秘訣」という言葉で紹介する）を用いることで，初歩的な段階であるが，生徒たちの希望に近づくことのできる学習となるに違いない。

本学級の生徒は，　（省略）

指導にあたっては，JTE と ALT との英語だけでの対話を糸口として，生徒に「あんな風に英語だけで対話を続けてみたい」という意欲を新たに引き出したい。これまで，生徒は，英語での対話を続けることへのあこがれはあるが，それは難しいことだとも感じていた。だが，「対話を続ける秘訣」を自分たちが発見したという喜びをもとに，「これらの秘訣を使えそうだ，できるかもしれない」という気持ちにつなげることで，その後の活動に意欲的に取り組むことができるだろうと予想される。さらに，一定の時間制限を設けて，ペア活動でシートを見て読む練習から，次第に目を離して相手を見ながらの練習にレベルアップさせ，「いつの間にか３種類のスキル（秘訣）が使えた」という自信をもたせたい。また，発表の前に，２つのペアを組み合わせた４人をグループとし，３つポイント（①対話のやりとりが４回以上②スキルは，２つ以上使う③発表では，シートを見ない）を押さえて１分間を目安とした対話を聞き合い，助言し合えるようにしたい。聞く側のペアは，ストップウォッチを持って計時して対話を聞きながら，自分たちが助言する立場だという意識をもたせ，グループ内の２つのペアがお互いによい対話発表をしようとする意欲を高めたい。これらの過程を通して，基本的な知識・技能を習得しながら英語を通してかかわる喜びを味わうことで，４技能を総合的に育成することを目指していきたい。

3　目　標

○英語だけで対話を続けることに興味・関心と意欲を高める。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○英語の対話に使われるスキルを用いて，自分たちのオリジナルな対話を書き，一定の時間，英語だけで対話を続けられる。（外国語表現の能力）

○英語の対話に使われるスキルを理解し，英語だけで続ける対話を理解できる。
（外国語理解の能力）

○対話をつなげるスキルを知り，トピックをもとに対話を続けるために必要な表現や単語についての知識を深める。（言語・文化についての知識・理解）

4　単元の指導計画と評価計画（２時間）

次	時	学習課題・活動	評価規準
1	1	**英語で対話をつなげる秘訣を知ろう。** ・３つの秘訣を見つけよう。 ・秘訣の使い方に慣れよう。	(知識・理解) 対話をつなげるスキルを見つけ出し，進んでそれらを身に付けようとする。 （Go for the Goal カード，ワークシート，観察）
	2 （本時）	**自分たちの興味のあるトピックで対話をつなげよう。** ・３つの秘訣を使いながら，１分間，英語で対話を続けよう。	(表)ペアの二人の共通の興味をトピックとして，１分間を目安に，英語だけで対話を続け，発表できる。 ＊ （Go for the Goal カード，観察，発表）

＊ Go for the Goal カード；単元毎に作成・使用している学習カード

5　本時の学習

（1）目標

○　（英語で対話をつなげる技を知り,）自分たちの興味のあるトピックについて，１分間を目安に，英語だけで対話を続け，発表できる。

（2）準備・資料

・ワークシート（スキルの発見及びパターンプラクティスのためのシート）
・Let's Keep Talking in English シート（対話作りのためのシート）
・Go for the Goal カード（単元学習カード）
・ストップウォッチ

（3）板書

Project 4
Let's Keep Talking in English

英語だけで対話を続けられる！
Let's Keep Talking in English!
～秘訣が分かった～

Today's Class

1　対話の秘訣を見つけよう。マスターしよう。
2　秘訣を使えば対話は続く！
(1)ペアで対話を
(2)見ないで対話
(3)発表
3　振り返り

4　おまけに

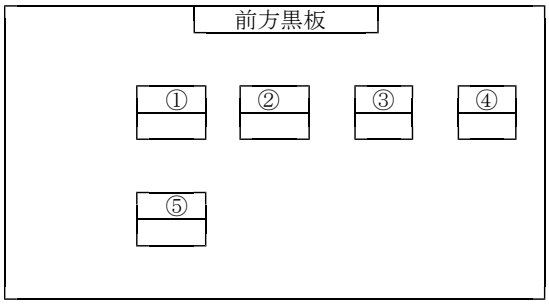
秘訣１　相手の言ったことに　　質問する
I visited Keniya last summer.　→　How long did you stay there?

秘訣２　相手の言ったことを　　繰り返す，確認する
Do you know Masai people?　→　Masai people?

秘訣３　相手の言ったことに関して→自分の意見や感想を言う
I really want to visit many other countries.
↓
I think it's not only interesting but also useful to visit foreign countries.

（4）場の工夫

○ペア活動
○グループ活動　（学習活動２の③）　□　の５カ所



（５） 展開 （今回は，単元計画の第１時・２時を合わせ，さらに発展的な活動を加えた展開とした。）

学習活動（予想される生徒の姿）・内容	教 師 の 働 き か け と 評 価
1 Warm-up （１）Introduction （２）英語の歌 “Sing” を歌う 2 本時のめあてを知り，活動する。	・JTE と ALT が簡単な自己紹介をする。 ・緊張感を解き，英語学習への意欲を高めるために，“Sing”を歌う。
Let's Keep Talking in English!　英語だけで対話を続けられる！　～秘訣がわかった～	
（１）英語の対話を続ける秘訣を見つけ，それぞれのスキルの習得のために練習する。 ①対話例を聞く ②№.１の対話シートを読み，秘訣１を見つけ，練習する。 秘訣１　相手の言ったことに→質問する I visited Keniya last summer. →　How long did you stay there? ③№.２の対話シートを読み，秘訣２を見つけ，練習する 秘訣２ Do you know Masai people? →　Masai people? ④№.３の対話シートを読み，秘訣３を見つけ，練習する 秘訣３ I really want to visit many other countries. ↓ I think it's not only interesting but also useful to visit foreign countries. （２）ペアごとにトピックを決めて，対話をつくり，発表練習をする。 ○　ポイント１：対話のやりとりが４回以上 ○　ポイント２：スキルは，２つ以上使う ○　ポイント３：発表では，シートを見ない（シートに書いた内容を変更してもよい） （３）グループ毎にお互いのペアの対話を聞き，助言し合う。	・対話例を提示する前に，対話がどれくらい続いたのかに注目するように指示する。（時計は見ないで，推測させる。） ・対話例で紹介された時間，対話できるようになるには，秘訣があることを話し，その秘訣を知ろうという意欲を高めたい。 ・№.１のシートには，秘訣の内容を書かないでおき，シートの対話を反復練習しながら，秘訣の内容を見つけさせたい。 ・生徒たちの発見の言葉から秘訣（スキル）にあたるものを見いだしで板書することで，対話作りの参考となるようにする。 ・№.２，№.３にについても，№.１と同様に，生徒の発見を練習の意欲につなげたい。 ・反復練習の際，次第に顔を上げて，見ないで練習しようとするペアなど，意欲的な取り組みを取り上げて，単に「読む」練習にならないように注意させる。 ・生徒たちの活動の様子を見ながら，集中した練習になるように，対話の反復の時間を調整したり内容に変化をもたせたりする。 ・対話の切り出しは，お互いが興味のもてるトピックであることを前提とし，最初の英文と応答の分担を決めた上で対話作りにとりかかるように指示する。 ・活動の成就感を得られるように，条件を明確にし，さらに，口頭による対話作りなど，発展的な活動に対しても意欲をもてるように活動の幅を広げておきたい。 ・他のペアの対話を聞くときに，ストップウォッチを使って計時させることで，助言者としての意識を高めたい。。 ・参考となるような「教え合い」の姿を，本時の終わりに学級全体に広げられるように，期間指導の際特に心がけて観察する。
【評価】（外国語表現の能力） ペアで，３つのポイントを押さえながら，１分間を目安に発表できる。 （Go for the Goal カード，観察，発表） 【努力を要する生徒への働きかけ】 ３つのスキルを参考に，対話への応答を考えたり，繰り返したりできるように助言する。 【十分満足できる状況例（キーワード）】 自分たちの対話は，シートを見ないで発表できるところまで練習ができ，さらに，他のペアに対して，不足しているポイントについて助言したり，見ないで対話するための練習方法を伝えようとする。	
3 本時の振り返りをする。 ○活動や発表を振り返り，成果や課題について気づいたことをまとめる。 4 発展的活動　Do You Like Poems?	・生徒たちの振り返りの記述から，いくつかをとりあげながら，生徒の気づきや成果などを共有していきたい。

4-4　茨城大学教育学部第２回附属学校フォーラム

平成25年3月2日（土）茨城大学教育学部にて、第2回附属学校フォーラム「子どもたちの言葉は今」－聞く力を育てるために－が開催されました。

今回は、茨城大学教育学部教員と附属学校教員及び公立学校教員との組織的な一体的な取組による教育研究と教育実践を提案するとともに、参加者とディスカッションすることを目的としていました。

参加者は、大学教員・学生・附属学校教員・公立学校教員・一般で143名となり、第1回附属学校フォーラムの129名を上回りました。これは、公立学校教員の参加が増えたことによるものです。

開催に先立ち、尾﨑久記学部長が挨拶し、地域と連携した取組の重要性やより高度な教員養成のための今後の展望について語りました。また、本多清峰水戸市教育委員会教育長の来賓挨拶では、今日的課題に取り組んでいる本フォーラムへの期待や水戸市内中学生の梅まつり観光ボランティアの取組紹介などが述べられました。

続いて、橋浦洋志教育学部教授による「学習活動の基礎としての聞く力の育成」と題する基調講演がありました。この中で橋浦教授は、＜声＞としての教育力に触れ、＜声ことば＞の重要性から「＜聞き手＞が＜話し手＞を育てる」ことを強調し、最後に「＜聞くこと＞から＜話すこと＞へ」を提言しました。

基調講演後は、昌子佳広教育学部附属実践総合センター准教授がコーディネーターとなり、生越達教育学部教授及び附属や公立の小中学校教諭によるパネルディスカッションが行われました。各パネラーからは、子どもたちの「聞くこと」の現状と課題解決に向けての取組の例などが紹介され、会場との質問応答も含め、改めて教師自身の「聞くこと」についても考える貴重な場となりました。

これらを受けて、君塚剛文部科学省高等局大学振興課教員養成企画室室長補佐から指導講評がありました。「聞く力」という今日的課題に、教科や学年の枠を超えて学部と附属及び公立学校教員が一体となって取り組んでいること、また、日々児童生徒に接している中で研究していることの重要さに触れ、このような地道な取組が学校現場を支え、教育力を高めることにつながっているのだろうという感想とともに、今後の茨城大学教育学部の質の高い教員養成と附属学校のミッションとしての先進的な取組への期待が述べられました。

最後に、木村競副学部長が、今回のフォーラムが様々な立場からの提言で成り立ち、「聞く力」をもつ参加者の協力のもとに開催できたことのお礼と、教員自身の「聞く力」が「体罰」の未然防止につながることにも触れ、さらに「遮らずに最後まで聞くこと」の決意で締めくくり、閉会の言葉としました。

橋浦洋志教授による基調講演

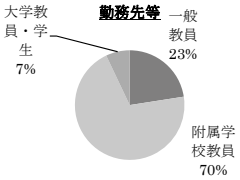
パネルディスカッション

君塚剛氏による指導講評

平成24年度　第２回　附属学校フォーラム　アンケート集計結果

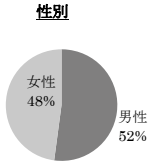
Ⅰ　勤務先等

	回答者数(人)
一般教員	16
附属学校教員	50
大学教員・学生	5



Ⅱ　性別

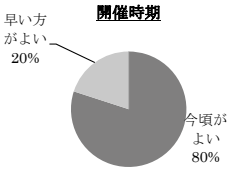
	回答者数(人)
男性	37
女性	34



Ⅲ　附属学校フォーラムについて

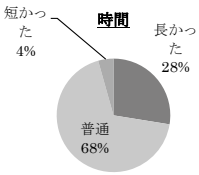
①開催時期について

	回答者数(人)
今頃がよい	52
早い方がよい	13
遅い方がよい	0



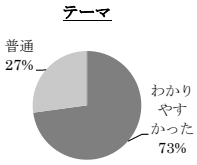
②時間

	回答者数(人)
長かった	19
普通	47
短かった	3



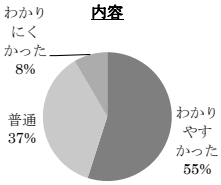
③テーマについて

	回答者数(人)
わかりやすかった	51
普通	19
わかりにくかった	0



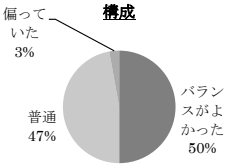
④内容

	回答者数(人)
わかりやすかった	39
普通	26
わかりにくかった	6



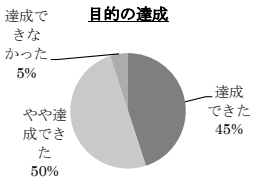
⑤構成

	回答者数(人)
バランスがよかった	35
普通	33
偏っていた	2



Ⅳ　附属学校フォーラムの目的は達成できたか

	回答者数(人)
達成できた	36
やや達成できた	40
達成できなかった	4



5　教育学部の活動

5-1　茨城県教育委員会との連携活動

(1)茨城県教育研修センターへの講師派遣

教育学部教員は、茨城県教育研修センター（笠間市）での各種研修事業に講師等として参加し、協力を続けています。なかでも平成18年3月に研修センター所長と教育学部長との間でかわされた「連携協力による覚書」によって、教育研修センターで毎年おこなわれる「10年経験者研修」に、本年度も以下の講師を派遣しました。なお「10年経験者研修」の講師派遣については、大学側の調整窓口として、附属教育実践総合センターが担当することになっています。

平成24年6月12日　宮川 八平（保健管理センター所長）
「講義　生活習慣病の予防」
平成24年7月3日　新井 英靖（特別支援教育）
「講義・演習　センター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割」
平成24年7月10日　守屋 英子（学校臨床心理）
「講義　児童生徒の発達課題」
平成24年10月23日　松村　多美恵（特別支援教育）
「講義・演習　障害のある児童生徒のアセスメントと指導」
平成25年10月31日　齋藤ふくみ（養護教諭養成）
「講義・演習　健康課題の解決に向けた健康教育の理論と方法」

(2)茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との連携協議について

現在、中央教育審議会の「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」で、修士レベルの教員養成課程の改善について議論されています。その結論にはもう少し時間を必要としていますが、その議論のなかで「教育委員会・学校と大学の連携・協働」が強く打ち出されていることは周知のとおりです。そういったことをうけて、茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との間でWGがつくられ、今後の国の教員養成のあり方に対応すべく議論が重ねられています。

教育学部側WG委員　木村　競　教育学部副学部長
小川哲哉　大学院専門委員長
田中健次　教育実践総合センター長

5-2　茨城県教育研究連盟との連携活動

茨城県は茨城大学、茨城県教育委員会、茨城県校長会、茨城県教職員組合など教育関係諸団体によって「茨城県教育連盟」を組織しています。連盟の任務は機関誌『茨城の教育』の発刊、研究集会の開催、教育情報の収集と集積です。当センターではこれらの教育にかかわる冊子を「茨城の教育情報室」に収集するとともに誰もが閲覧できるようにしています。もちろん例年おこなわれる研究集会の分科会に助言者として、教育学部の教員が参加しています。

2012年10月13日に茨城大学水戸キャンパスにおいて、第57回茨城県教育研究連盟研究集会が開催されました。

612人の関係者が参加した研究集会の全体会では川嶋秀之教授による「言葉という不思議」と題した講話がおこなれ、その後22の分科会にうつり、総数249本の実践レポートが報告され、それにもとづいて熱心な討議が重ねられました。それぞれの分科会に助言者として参加した教育学部教員は以下のとおりです。

国語教育	鈴木一史
外国語教育	猪井新一
数学教育	小口祐一
社会科教育	木村勝彦
理科教育	山本勝博　大辻永
生活科・総合・環境教育	杉本憲子　郡司晴元
技術教育	野崎英明
家庭科教育	佐藤裕紀子
音楽教育	田中健次
美術教育	向野康江　片口直樹
保険教育	斎藤ふくみ
体育・保健体育教育	吉野聡
特別活動	田中正彦（附属中学校教諭）
道徳教育	生越達
生活指導	丸山広人
進路指導	望月志
情報化と教育	岡部千草　本田敏明
幼保小連携と保育問題	渡部玲二郎
特別支援教育	鈴木栄子（特別支援学校副校長）
教育条件整備と教育の問題	加藤崇英
個性の尊重とその評価	村野井均
人権保障と共生の教育	小川哲哉

なお、平成25年度より茨城県教育研究連盟の事務局長を当センター長が兼務することになりましたことを申し添えます。

5-3　ＪＩＣＡへの協力

平成11月19日、「中南米地区　算数科における教員の授業実践能力向上」コースのJICA研修員が日本の教員養成機関の教員の現状と課題、とくに算数教育の指導技術向上のために、茨城大学教育学部を訪ねてきました。

同日は、尾﨑教育学部長による歓迎の挨拶のあと、学内施設見学をおこないました。その際、音楽教育教室学生の演奏による歓迎セレモニーを受けたり、また学部関係者によって、技術教育教室のコンピュータ演習室での電子黒板の教育的効果、教育実践総合センターに設備されている模擬授業室の活用について、JICAの方々に説明がなされました。その後、教育学部加藤崇英准教授による「日本における教員養成の現状と課題」についての講義をうけ、昼食を学生食堂で数学教育教室の学生たちと意見交換しながらとりました。

午後は小口祐一准教授による「茨城大学教育学部における算数・数学教員の育成」について講義をうけたのち、学生、JICA研修員、本学部関係教員によってフリーディスカッション形式で、日本の教員養成の歴史的流れ、JICA研修員の国々における教育的課題、学生による教員志望の動機、また日本の教育実習制度などについても意見交換がなされました。JICA研修員の方々は「たいへん意味のあった研修であった」との声を残し、本学を後にしました。

歌による歓迎風景

小口准教授による日本の数学教育の説明

学生たちとのフリーディスカッション

JICA研修員の方々と学生たち

JICA 筑波　研修業務・市民参加協力課

「算数科における教員の授業実践能力の向上」コース　茨城大学訪問

2012 年 11 月 19 日（月）9:30～15:20／茨城大学教育学部

1.　目的：

日本の算数教育、特に大学教育学部（現職教員養成機関）における教員養成の現状と課題、算数科指導技術の向上に向けた取組について理解する。

2.　訪問者（予定）：計 12 名

- 研修員 9 名（ホンジュラス、ニカラグア、ボリビア、エクアドル、パラグアイ）
- 西方　憲広（コースリーダー、JICA 国際協力専門員）
- 根本　乙（担当職員、JICA 筑波）
- 石井　裕子（研修監理員兼スペイン語通訳）

3.　内容（案）：

時間	プログラム	場所
09:20	茨城大学教育学部到着	
9:30	1. 挨拶：茨城大学教育学部代表者（教育学部長　尾﨑　久記　様）	
9:40 （70 分）	2. 見学：教育学部棟の施設 （担当：教育実践総合センター長　田中　健次　様）	
10:50	休憩（10 分）	
11:00 （60 分）	3. 講義①：日本における教員養成の現状と課題 （担当：学校教育　加藤　崇英　様） ・日本の教員制度 ・教員養成の問題と課題	
12:00	学生と食事休憩（数学教育教室の 4 年生 6 名程度）（60 分）	学生食堂
13:00 （60 分） 説明 30 分 質疑 30 分	4. 講義②：茨城大学教育学部における算数・数学教員の育成 （担当：数学教育　小口　祐一様） ・教員養成カリキュラムの紹介 （特に、算数・数学教員の育成、研修、授業改善の進め方について）	
14:00	休憩（15 分）	
14:15 （60 分） 説明 30 分 質疑 30 分	5. 意見交換：茨城大学教育学部 4 年生（算数、数学教員になる学生など） （担当：教育実践総合センター長　田中　健次　様） ・教員を志した動機、大学での生活・勉強、日本と中南米との比較など ・学生（数学教育教室 4 年生 6 名程度） ※2 グループに分かれてのフリーディスカッション	
15:20	茨城大学教育学部出発	

※講義、意見交換には日本語・スペイン語の逐語通訳が入ります。

5-4　平成 24 年度開講の茨城大学教育学部公開講座

講座名	講師	開催日	募集・受講　人数
新しいインターネットの利用法　前期	本田敏明	8/7(火)、8/8(水) 8/9(木)	一般市民　15名 受講生　　12名
新しいインターネットの利用法　後期	本田敏明	12/25(火)、12/26(水) 12/27(木)	一般市民　15名 受講生　　11名
教育と臨床に生かす インプロヴィゼーション	正保春彦 他学外講師１名	5/26(土)、5/27(日)	一般市民　25名 受講生　　12名
グープワークで学ぶ カウンセリング講座	正保春彦	8/4(土)、8/5(日)	一般市民　25名 受講生　　19名
インプロヴィゼーション 入門	正保春彦 他学外講師１名	11/17(土)、11/24(土)	一般市民　20名 受講生　　16名

教育と臨床に生かすインプロヴィゼーション

教育と臨床に生かすインプロヴィゼーション

教育と臨床に生かすインプロヴィゼーション

グループワークで学ぶカウンセリング講座

5-5　県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

活動メンバー

大学院学校臨床心理専攻修士１年 12 名
学部生５名（心理コース１名・家庭選修１名・社会選修１名・人文学部心理コース２名）
特別支援教育特別専攻科１名
指導教員
守屋英子・金丸隆太・岸良範・正保春彦（学校臨床心理）・三輪壽二（学校教育）

連携先

茨城県教育庁高校教育課
県立鹿島灘高校・県立結城第二高校

活動の内容・目的

平成 17 年度に開校したフレックススクール県立鹿島灘高等学校（通信制・三部制）および平成 20 年度に同じくフレックススクールとして開校した県立結城第二高等学校へ，生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり，生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の４点である。

(1) 生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。
(2)「心理学」(必修授業) の授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。
(3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。
(4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を，毎回校長に提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前後期とも週に５日，結城第二高校では前期は週４日，後期は週５日，メンバーが交代で活動した。毎月最終週にミーティングを持ち，１ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返った。活動上疑問や困難を感じることについて全体で話し合った後，高校ごとに分かれてエイドの居る部屋に来室する生徒についての情報を共有する時間を持った。教員は生徒についての理解や対応について意見を述べ，活動がスムーズに行えるようサポートした。

また，それぞれの高校で「キャンパスエイド研究協議会」を持ち，高校の教員と大学教員、キャンパスエイドが一緒になって生徒対応について話し合った。３月に茨城大学で開催する「茨城地域教育臨床研究会」第４回にて，鹿島灘高校・結城第二高校それぞれでの１年間の活動報告をし，その内容を学校臨床心理専攻紀要「心理臨床研究第６号」に掲載する予定である。

活動の成果・意義

フレックス・スクールの生徒は，中学生時代に対人関係における困難さを抱えていた者が多い。彼等は同級生とのやりとりに不安を持っていることが多いが，キャンパスエイドが高校内にいることで，「同級生とは話しづらいが，年上の大学生となら話せる」という安心感と居場所を与えることができた。またキャンパスエイドが橋渡しとなって，キャンパスエイドの居る部屋に来る生徒同士でコミュニケーションが取れるようになるという変化が見られた。

キャンパスエイドに話をしに来る生徒達は，日常の些細な出来事から，学校や家庭での深い悩みまで，様々なことを話していた。キャンパスエイド達は毎月のミーティングで，生徒達の話をどう聴くか，生徒達をどう理解するか，毎回熱心に学び，生徒への接し方，話の聴き方が身につき，生徒の成長を実感することができた。

地域連携活動としてフレックススクールの生徒を支援するとともに，活動に参加する院生・学生達にとってもまたとない学びの場となっている。

5-6　臨床心理相談室の活動

平成13年から平成24年2月まで活動していました教育学部附属教育実践総合センター心理教育相談室が，平成24年4月より教育学研究科臨床心理相談室として再スタートしました。これは，教育学研究科学校臨床心理専攻が臨床心理士養成第二種指定校から第一種指定校へと指定変更することに伴って，学内実習の場として相談室が発展的に組織変更されたためです。

１．心理教育相談室から変化したところ

臨床心理相談室となり，変わったところがいくつかあります。

一つは相談が有料となったことです。料金が発生することで，より責任ある専門性の高い心理相談の質が求められることになり，その自覚のもとに相談担当者（実習相談員も含め）が心理臨床活動を行います。一方で利用者側も，心理相談を受けることに自覚ができて能動的になり，相談に関する要望なども表明しやすくなります。有料とは言っても地域の多くの方の利用しやすさも考え，料金を設定しました。（右表１参照）

表１　相談料金

相談内容	料金
受理面接	3000円
心理面接	1500円
親子面接	1500円
集団面接	1000円
コンサルテーション	1500円
検査面接	1500円
文書料	1500円

二つ目は相談の対象を子どもの心理的な問題に付随するものに限らず，青年期・成人の心理的な問題や悩みにまで広げたことです。茨城県内では心理相談を受けることができる機関が少ないため，より地域のニーズに応えることができるようになると考えられます。

また，三つ目として，「コンサルテーション」という形で，学校の先生方の児童生徒・保護者への対応等についての相談だけではなく，対人援助職（児童養護施設職員，スクールカウンセラー，小児科・精神科心理士，など）の方のスーパーヴィジョンなども臨床心理相談室で受けることができるようになりました。

２．昨年度と今年度の比較

新規相談件数は平成23年度の38件よりも平成24年度が57件と増えていますが，うち14件がコンサルテーション，10件が心理面接（成人）であり，子どもの相談の新規件数は33件でした。内訳として，専門・大学生，成人が増えていました。延べ面接回数は昨年度よりも若干少なくなっていますが、有料化によって極端に相談が減ることは無かったと考えます。

表２　2月末までの相談件数

	新規件数	延べ件数	延べ回数
平成23年度	38	1202	1879
平成24年度	57	1018	1534

表３　平成２４年度新規相談内容

心理面接	親子面接	コンサルテーション	合計
10	33	14	57

表４　新規相談年齢別比較表

	幼児	小学生	中学生	高校生	専門・大学生	成人	合計
平成23年度	4	15	6	9	3	1	38
平成24年度	0	18	7	5	5	8	43

平成24年度は、コンサルテーション14件除く

３．過去５年間の相談実績の推移

過去5年間の延べ面接回数を〔表５〕に，新規相談内容の推移を〔表６〕〔図１〕に示します。

表5　過去5年間の延べ面接回数

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
延べ面接回数	1872	1951	1977	1946	1528

平成24年度は、2月末までの集計

表６　過去5年間の新規相談内容

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
不登校	23	18	19	11	13
いじめ	0	1	1	2	0
人間関係	3	2	1	1	9
行動上の問題	6	4	2	2	3
情緒的問題	8	4	11	6	5
発達障害	16	7	11	13	12
コンサルテーション	－	－	－	－	14
その他	1	1	4	4	1
計	57	37	49	39	57

平成24年度は、2月末までの集計

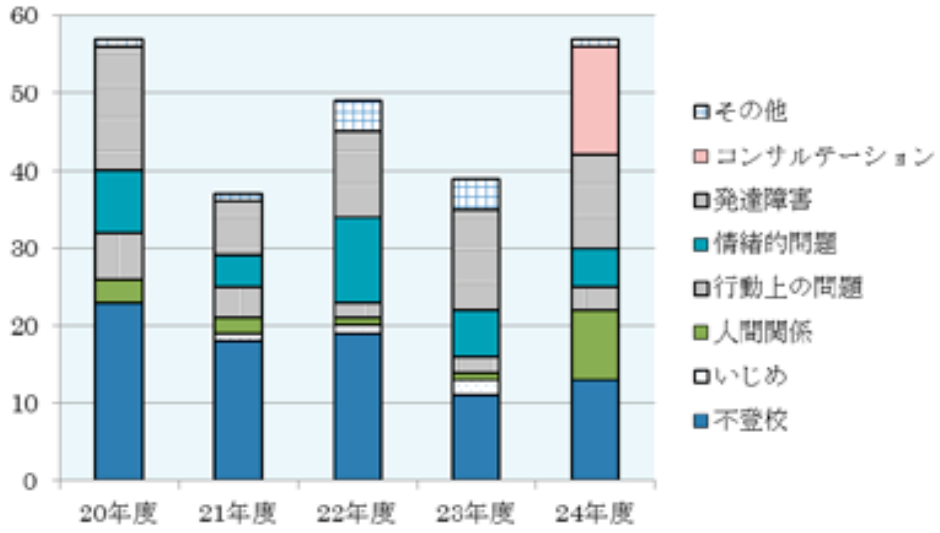


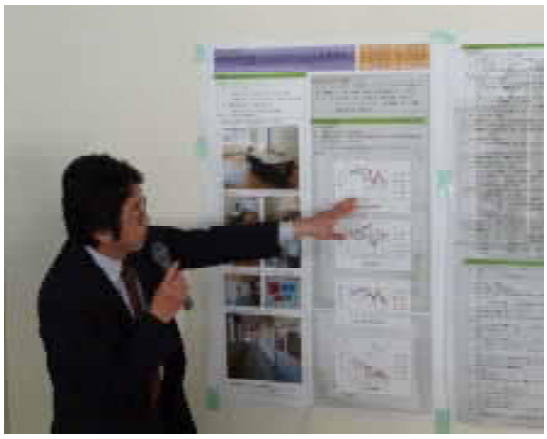
図１　過去5年間の新規受付相談内容

5-7　茨城地域教育臨床研究会

大学生・大学院生による中学・高校内でのメンタル･サポート

日時：平成25年3月25日（月）15時～ 17時
場所：茨城大学教育学部　B棟　B205教室

プログラム：
15：00 ～ (1) ご挨拶
高校教育課高校教育改革推進室室長　横田和巳先生
茨城大学教育学部地域連携委員会委員長　田中健次先生
茨城地域教育臨床研究会代表　守屋英子先生
15:10 ～　(2) ポスターセッション
A:茨城県立鹿島灘高校におけるキャンパスエイド活動
B:茨城県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動
C:茨城大学教育学部附属中学校、カウンセリングルームにおける活動
15:40 ～　(3) 学校からみた学生による活動と校内のメンタル・サポート
①茨城県立鹿島灘高校より　川上正裕先生
②茨城県立結城第二高校より　岩﨑祐児先生・飯塚英夫先生
③茨城大学教育学部附属中学校より　増田浩一先生
16:10 ～　(4) スクールカウンセラーからみた学生による活動と校内のメンタル・サポート
①茨城県立鹿島灘高校スクールカウンセラー　中山恵美子先生
②茨城県立結城第二高校スクールカウンセラー　光林智暁先生
③茨城大学教育学部附属中学校スクールカウンセラー　大場朋子先生
16:30 ～　(5) フリーディスカッション
17:00　終了



第３回茨城地域教育臨床研究会（平成24年3月）のポスターセッションの様子

6　資料

6-1　茨城大学教育実践研究第 31 号原稿執筆者

1. 統計判断における学習者の誤りに関する問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小口祐一
2. 変数操作シミュレーションによる教授方略の枠組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小口祐一
3. ヒストグラムの読み取りにおける学習者の誤判断とその修正・・・・・・・・・・・・・・ 小口祐一
4. 知識の高次化を促進する数学的モデリングに関する研究・・・・・・・・・・・ 木村了士・小口祐一
5. 小学校第５学年「天気の変化」における指導法に関する考察
   —— 低気圧を活用する問題点と総合的な気象情報を用いた学習活動について ——
   ・・ 中林俊明・山本勝博
6. 美術教育における言語的方法の展開　—— 表現内容に関わる言語の機能 ——
   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 金子一夫・小口あや・角谷由美・鈴木敦子
7. 美術教育における言語的方法の精緻化　——感情像の言語化による表現主題の把握 ——
   ・・ 金子一夫・中川知子・有田洋子
8. 神社建築の表現手法を理解する美術科授業実践の報告
   ——厳島神社（茨城県鉾田市子生（ほこたしこなじ））を例として——　・・ 井上朋美・向野康江
9. 持続可能な社会の担い手を育成する家庭科教員養成の課題
   ——「環境アクション・プラン」の実践を通して—・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐藤裕紀子
10. 高等学校家庭科における生活設計領域の特徴と課題・・・・・・・・・・ 佐藤裕紀子・矢口美友紀
11. 調理前後の消費者安全に視点をあてたレシピ教材の開発 ・・・・・・・・・・・・・・・ 山本紀久子
12. 加熱用器具における消費者安全教育教材の開発 ・・・・・・・・・・・・・・ 山本紀久子・山﨑彩奈
13. 小学校教員養成における家庭科授業デザインの開発 ・・・・・・・・・・・・ 山本紀久子・佐藤麻子
14. 被服実験教具　通気性簡便測定装置　シリンジ法の開発 ・・・ 田上和子・佐藤麻子・山本紀久子
15. 中学生のライティング活動中における過去形の正確性を高めるための修正フィードバックの効果と
   学習者の習熟度との関係について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 西尾直美・猪井新一
16. 養護実習事前学習としての保健室掲示物作成に関する一考察 ・・・・・・・・・・・・・ 斉藤ふくみ
17. 子どものメンタルヘルスに関する研究　—— 教師の理解を中心に——
   ・・ 成田絵里・斉藤ふくみ
18. 健康相談活動についての養護実習生の認識に関する研究
   —— 小学校実習前後及び中学校実習前後の変化の比較 ——
   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木裕美・斉藤ふくみ・廣原紀恵・石原研治
19. 情報科教師教育のためのWikiの活用
   —— プレゼンテーションを重視した災害支援と模擬授業を例に ——・・・ 右島綾香・本田敏明
20. 小学生の運動有能感と体力・運動能力および運動スキルとの関係 ・・中山 綾・松坂 晃・吉野　聡
21. 教育困難校におけるグループ・ワークでの自己語りの特徴 ・・・・・・・・・ 深谷佳子・丸山広人
22. グループワークの心理的効果についての一考察
   —— 構成的グループ・エンカウンターとインプロヴィゼーションの比較から ——・・ 正保春彦
23. あいづちからみた自己一致に関する一考察
   —— 初心者カウンセラーとベテランカウンセラーの比較から ——・・・・ 鈴木大輝・正保春彦
24. 慢性的な疾患を持つ子どもが病気と共に生きる過程について ・・・・・・・ 菊池聡美・守屋英子

6-2　教育学部の活動

氏　名	所　属	活動名	活動期間	活動内容	連携機関
橋浦洋志	国語教育教室	東海村教育研究会図書館教育研究部員研修会	8月7日	学校図書館主任、学校図書館指導員を対象に読書指導に関する講演をした。	東海村教育委員会
増子和男	国語教育教室	県南生涯学習センター講座「天章堂講座」出講	10月20日、11月3，10日、12月1，8日、1月26日	「日中比較妖怪学入門」と言うタイトルで、6回連続講座を実施した	茨城県県南生涯学習センター
伊藤　孝	理科教育教室	「いきいき萩っ子育成事業」	3月18日	「いきいき萩っ子育成事業」の企画・運営の補助および講師の派遣	茨城県高萩市生涯学習課
大辻　永	理科教育教室	美浦村立安中小学校　研究会助言者	10月5日、11月1日	ICTの活用に関する授業研究会における助言	茨城県教育委員会、県南教育事務所、美浦村教育委員会、美浦村立安中小学校
大辻　永	理科教育教室	出前授業「竜巻発生のメカニズム」	12月12日	つくばスタイル科の一環で、竜巻被害に遭った中学校2年生約20名を対象に、そのメカニズムについて解説した	つくば市教育委員会、筑波東中学校
大辻　永	理科教育教室	出前授業「サケから広がる世界」	12月13日	小学校全校児童を対象に、サケの特質、飼育する意味について授業を行った。	水戸市立城東小学校
大辻　永	理科教育教室	出前授業	10月23日	小学校5、6年生を対象に、それぞれ別メニューの出前授業を続けて行った	那珂市立横堀小学校
大辻　永	理科教育教室	防災教室指導者講習会	6月12日	県西地区各学校の防災担当教諭に対する講演	県西教育事務所、茨城県教育委員会
大辻　永	理科教育教室	大学紹介	10月4日	県立牛久高等学校の訪問団を対象に大学紹介を行った	県立牛久高等学校　茨城大学入試課
大辻　永	理科教育教室	大学紹介	6月28日	韓国・忠北大学からの訪問団を対象に大学紹介を行った	
大辻　永	理科教育教室	SSH課題研究発表会	7月14日	水戸第二高等学校SSH課題研究発表会	茨城県教育委員会　県立水戸第二高等学校
大辻　永	理科教育教室	授業「理科教育法特論」	夏季	模擬授業を大洗わくわく科学館で実施・引率	大洗わくわく科学館
小林英美	英語教育教室	世界の歩き方講座　―　イギリス編	7月3日、10日	夏のロンドンとその周辺地域の魅力と英国発祥のスポーツを紹介する講座	公益財団法人水戸市国際交流協会
野崎英明，工藤雄司	技術教育教室	平成24年度茨城県教育研究会　家庭，技術・家庭教育研究部　夏季研修会	8月10日	講師	茨城県教育研究会

○特筆すべき社会活動

氏　名	学科・専攻等	社会活動名	概　　要
篠田　明音	保健体育	平成24年度　体育学習アドバイザー（茨城県教育委員会）	教科体育の専門知識や技能を有する体育アドバイザー（表現・ダンス）として教育現場に携わる。
篠田　明音	保健体育	第34回　幼児体育健康教育講習会　講師（一般財団法人　日本幼少年体育協会）	「手軽に楽しめる運動あそび」をテーマに、子どもたちが遊びの中で自分の身体をコントロールできる能力を育めるような内容を提供できる様、心がけている。
工藤　雄司	技術教育	平成24年度　茨城県教育研究会　家庭，技術・家庭教育研究部夏季研修会　講師	「エネルギー変換・情報に関する技術」研修　講師 主催：茨城県教育研究会　家庭，技術・家庭教育研究部　共催：茨城大学　教育学部
加藤　崇英	学校教育	平成24年度「教員の勤務負担軽減等の取組」に係る学校の業務改善等に向けた実践研究指定校(業務改善モデル校)事業（茨城県教育庁義務教育課　市町村教育推進室）	
加藤　崇英	学校教育	茨城県教育研修センター　新任校長研修講座（学校組織マネジメント）	
勝本　真	人間環境教育	茨城県バレーボール協会理事	

○学外教育

氏　名	学科・専攻等	講義・講演名	実施主体
鈴木　一史	国語教育	NHK高校講座「現代文」講師	日本放送協会
松川　覚	理科教育	小学校理科教育推進事業「科学自由研究指導」 女性プラザ（行方市）	
松川　覚	理科教育	出前授業 「花火の科学」 大子清流高等学校	
松川　覚	理科教育	出前授業 「花火の科学」 水戸第二高等学校	
村野井　均	学校教育	テレビ理解の心理学	茨城県立佐竹高等学校
村野井　均	学校教育	今のテレビはこうなっている～子どものテレビ視聴と放送局～	茨城大学教育学部附属小学校PTA成人教育委員会
村野井　均	学校教育	子どもの発達のしくみを学ぶ	茨城県学童保育連絡協議会
甲斐　教行	情報文化	美術館アカデミー「ブルネレスキー近世の黎明」	茨城県近代美術館
木村　競	人間環境教育	ひたちなか市民大学「つながりの力を考える倫理学」	ひたちなか市教育委員会
渡部　玲二郎	人間環境教育	茨城県立日立北高等学校(出前授業)	

丸山　広人	人間環境教育	水戸市立上中妻小学校保健委員会研修会講師	上中妻小学校
丸山　広人	人間環境教育	第57回茨城県教育研究連盟研究集会助言者	
丸山　広人	人間環境教育	茨城町適応指導教室研修会講師	茨城町教育委員会
丸山　広人	人間環境教育	笠間市立稲田小学校研修会講師	稲田小学校
丸山　広人	人間環境教育	日立市立日立特別支援学校研修会講師	日立市立日立特別支援学校
丸山　広人	人間環境教育	茨城いのちの電話初級カウンセリング講座講師	茨城いのちの電話
丸山　広人	人間環境教育	茨城県立水海道第一高等学校（出前授業）	水海道第一高等学校
丸山　広人	人間環境教育	水戸地区学校教育相談研究会講師	
丸山　広人	人間環境教育	茨城県立水戸第二高等学校（出前授業）	
丸山　広人	人間環境教育	茨城県立土浦湖北高等学校（出前授業）	
丸山　広人	人間環境教育	大子教育支援センター研修会講師	
丸山　広人	人間環境教育	児童思春期精神保健講座	
丸山　広人	人間環境教育	茨城県教育研修センター教育相談事例検討会講師	茨城県教育研修センター
松坂　晃	人間環境教育	第10回教職員のための研修会講師「子どもの肥満と身体活動」	
松坂　晃	人間環境教育	平成23年度茨城県スポーツ指導者研修会講師「子どもの体力向上について」	
富樫　泰一	人間環境教育	大成女子高等学校　平成24年度　コロキウム	大成女子高等学校
富樫　泰一	人間環境教育	一般財団法人東京都スキー連盟加盟団体安全対策講習会	一般財団法人東京都スキー連盟
富樫　泰一	人間環境教育	体育アドバイザー派遣事業水泳指導	茨城県教育委員会（坂東市立内野山小学校）
上地　勝	人間環境教育	ひたちなか市生涯スポーツ指導者講習会	ひたちなか市生涯学習課
上地　勝	人間環境教育	茨城県体育授業アドバイザー「陸上運動」ひたちなか市立堀口小学校	茨城県教育委員会
上地　勝	人間環境教育	水戸第二高等学校「ボディーワーク」	水戸第二高等学校

○講演会・シンポジウム等

氏名	学科・専攻等	会の名称	役割・内容	関連団体名	開催地名
鈴木　一史	国語教育	茨城県教育研連盟研究集会	助言者		茨城大学
鈴木　一史	国語教育	第75回　国語教育全国大会	ワークショップ講師		
鈴木　一史	国語教育	第75回　国語教育全国大会	校種別分科会　指定討論者兼司会者		
小野寺　淳	社会科教育	茨城県高等学校教育研究会地理部講演会「水戸道中・岩城相馬道−地域教材としての活用−	講演		小美玉市生涯学習センター
伊藤　孝	理科教育	平成24年度小中学校理科実技研修会	講師・実技指導	日立市教育研究会理科教育研究部	日立アプライアンス株式会社多賀事業所要害クラブ
田中　健次	音楽教育	第28回東日本小学校管楽器教育研究会大会・茨城大会	記念講演者（タイトル：「『楽』の『器』が音楽教育に運ぶもの」）	東日本小学校管楽器教育研究会	常総市地域交流センター
田中　健次	音楽教育	茨城県教育研究会総会・研修会	講師　テーマ「うたの力―近代日本の教育が音楽に求めたもの」		ひたちなか市文化会館
片口　直樹	美術教育	シンポジウム「拭いて描く」／茨城県近代美術館	須田国太郎展関連企画にパネリストとして参加		
渡邊　將司	保健体育	鉾田市スポーツ少年団指導者講習会	子どものスポーツトレーニング・コンディショニング		
渡邊　將司	保健体育	スポーツ医科学研修講座	テーピングの理論と実際	茨城県教育研修センター	
村野井　均	学校教育	講演会「電子教科書の現在　−全国の教育実態をもとに−」	実行委員長	日本教育メディア学会	茨城大学教育学部
村野井　均	学校教育	日本教育メディア学会第２回研究会	実行委員長	日本教育メディア学会	茨城大学教育学部
甲斐　教行	情報文化課程	世界の歩き方講座～イタリア編～	フィレンツェ郊外の魅力ーヴィッラめぐり、味覚と芸術の旅	公益財団法人水戸市国際交流協会	茨城県水戸市
甲斐　教行	情報文化課程	世界の歩き方講座～イタリア編～	古都フィレンツェの歴史と美術を訪ねて	公益財団法人水戸市国際交流協会	茨城県水戸市
甲斐　教行	情報文化課程	茨城県近代美術館・美術館アカデミー	ブルネレスキー近世の黎明		
加藤　敏弘	人間環境教育課程	平成24年度日本バスケットボール協会公認B級コーチ養成講習会	企画・運営・講師		

6-3　茨城大学教育学部教育研究連携推進委員会規則

（平成22年11月11日規則第97号）

（設置）

第１条　茨城大学教育学部（以下「本学部」という。）に茨城大学教育学部教育研究連携推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は、学部、大学院、附属教育実践総合センター及び附属学校が一体となり、かつ、必要に応じ学内外の関係機関とも連携し、本学部における教育実践に関する教育研究を推進するため、必要な業務を行うことを目的とする。

（審議事項及び業務）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項の審議と業務を行う。

(1) 学部、大学院、附属教育実践総合センター及び附属学校との教育研究上の連携に関する事項

(2) 学内及び学外の関係機関との教育研究上の連携に関する事項

(3) プロジェクトメンバーのコーディネイト

(4)　研究成果の公表

(5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

（組織）

第４条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 附属教育実践総合センター長

(2) 副学部長（附属学校担当）

(3) 附属教育実践総合センター教員（客員教授を含む。）から1人

(4) 附属学校委員会から推薦された附属学校教員　各校１人

(5) その他学部長が必要と認めた者　　若干人

２　前項第３号から第５号までの委員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長等）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、附属教育実践総合センター長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集しその議長になるとともに、業務を総括する。

３　副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。

４　副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長に事故があるときは，その職務を代行する。

（会議）

第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ会議を開くことができない。

２　委員が、やむを得ない事由により出席できないときは、委員長の承認を得て、代理者を出席させることができる。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときには、議長の決するところによる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、教育学部事務部において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規則は、平成22年11月11日から施行し、平成22年9月15日から適用する。